俳諧一葉集

二

佐藤鶴惠

俳諧一葉集附合之部一

古学庵佛兮 編
幻窓湖中 校
坎窩久藏 校

延宴五丁巳春

此梅ハ生れ初ると咲つゝ
ましてを世
まゝ命の極ハ志ゆきまる事の中に
孤味咲ます
想孤を芸術
むのしゝ紀の男ゆゝ

桃青

信章

青

章

時のいとけなくて父の身
章
青
瓜たてゆくゆく曳の山
青
ウ
五すぢとめしとのさる亭の巻
章
ひとつの松のもとに住よしの松
青
時雨しも仕形をもつてそえて
章
友よふとりのうしひかるる
青
青海の浦くさの白波の檜垣の色
章
森の下風
青
吉野原ふれもくれて遠ちの
章
曲水やうにもぐりもひのあ
青
意の秋うにたとくのうちとよ
章
吉祥天女とうれたるの月
青

時のうるしかるる
章
松のゆくしほひく耳たふ
青
大王は代をかからひき
章
かすみもうきも天竺のきぬ
二
女郎の重負女一文の物をとく
青
風進退をとり別る井海
章
時の鼓をよ京通ひまれ景て
青
うみもうの石の敷うめ中の
章
地をゆうハ石の内なくちひて
青
寺の松山業慶丹
章
子賀の浦ふ丹ふ月ふ情の陽
青
雪はきひてうるる加
章

たゞ行くてゝ
あ我山ものく
ゝやらすあの
ゝ里をうけ
あの月人ぬ
ちんまゝ町し
人をあ紙ハ
谷の戸を行
袖をの小路
花をんすあ
上野下風の

青章
青章
青章
青章
青章
青章
青章
青章
青章

隅田堤、彩れる柳果て
隙なき花さき続きて
ゝ河ハやをれ向おもせ
もゝさを鶯鬼ゝ人数の月
大学曲毋ゝを親子取ゝて
ゝ伐ハ掟ハのれ路ハ
ちも木ゝ三百ゝに肥つ石
山山ひゝ信仰料ゝと
不二の嶽ゝく雲を刈ゝ
人穴ゝ桶の庭
塀塀やゝ角の我の茶ゝ
山椒つゝや故椒ゝむ

青章
青章
青章
青章
青章
青章
青章
青章

小松やらしぶ八引てふしハ　章
葉不　ようこ女のよい春　青
うのひ陸ハ二陸ハ外きりれと　章
かしこそ松ゐ屋ゐ　松　青
ようふつこ去柄の松つくこ　章
能肉はほ　宮の　とに　青
思つけこ色は馬ゐ俊つむ　章
ろこちのこ小ろ眼ゐの月　青
飢餓こ弱ろこめろ秋の雲　章
多くハ倍宮　秋の上　風　青
三ウ
一紫つ　柳の数やこけめろ年　章
ら桜こ春ゐろこいけこ　青

新宿の月ハうもゐのこめふこ　章
叶雨陣　玉ものし　浮宿　青
松ろれころこ山端千　章
松吹　風ゐ　風ゐ屋ゐのろ　青
男ろこゐみの二本の下紅葉　章
恋ろし　秋こ　青
月ろこ美ろろ　青
河内の多くうふ　花　石　章
四年　ま之川屋の里ま播をく　青
浪千　芦　垣　佐ろ　ろ　章
叶こ花入江の屋ゐ中陽ろ　青
やろ一流　松こ　義ゐ紀　章

名

いてさくハ麝香ちまたとよ矢しぬ尺よ　青章

七りしいてく入おのゐる　青章

某湯三井の古寺汲ひけさ　青章

義さきし紙しもものこち藏　章

階はれら月ようハ月ようハ　青章

湯之社釜手至合ひ宮　章

既手神みーてつかうをめひう　青章

白髭　阪ハ湯釜よし紙て　章

つくしと宮手たち陵山　青章

ちけ入新阪ハ小紙の河名　章

月ふ紙ハ狐のあるまちよ　青章

ひふ手ハ狐のあ手ハ　章

月くうれあく　青章

古文書寶寺のつちる　秋章

十ふ湯のあ名たちけ走で白雲飛　青章

ち物たふーやや人のくるまや　章

紙のようる紙板の大木大問屋　青章

紙ちとひうえく多ようある　章

秤ち日本の新ちあやうけぬん　青章

ひう紙めるとつくぬのれう　章

紙手ちうと禁の里八十國ち　青章

ち坂ちゆきハ神のさくひ　章

同年春

梅の風俗物語さうし　信章

うちとけつつ　世の表　桃青

きやつて人す　霧のきめの袖えて　い

けんやく　ぬ心のとけお　幸

きてうに中ぢろ方ぢて　い

うち地の　ぢけてきひき　き

海べて　家の雲手有すて　い

越白うつくし　秋の多雲方　幸

いのち通るうちうちうの秋の風　き

寒て　去用しの月の明衣　幸

うつ好とよ　沖の山て琴ひて　き

青雲ふくひとよぎうふく　幸

松牧の本写の風　きく　きれ

農撫　桶きよ　村雨の出　幸

夕陽て生ひ　陽る　雲の雲　き

光るのすつくし山の渚かな花　幸

寒空のむうの紫ゆふ　き

桐葉　本く　志ち　和草　幸

猶の家　夕のう　すみやふ　き

行　五六外　けもる　月　幸

古里ふうのもの　あて　き

志賀山の雲　ふいこふく　風　い

二　きふみや二　風　和きえて　幸

陽こうて　陽ふ　原の　赤　き

[illegible]
玉のおやうちくく洗
侍ぬ宿のよろこんかまてゝ
上臈義ちゝ　杖　杉
付ちゝけるとひる寝やうの
新敷　ちゝハのてのれうや
寺井よ大ぬれハ所人あり
静ハみちうけハ有　絵
古帳う杖を引　新義
火鉢をちゝ　杉ちゝ
うのゆみうち　涙の月
はきちゝのいけうち秋をやむ

[illegible]
地獄のゆめくもつかうの
茶釜ちゝハうちちゝ上て
鼠ちゝ書ハ田の長さ
釣瓶うち流やちゝきちゝ
龍ハたちちゝ下ちゝ
ちゝ部の情ハ杉使ち
白むくうちゝ栗五十石
四尺ち弦ちゝひたひ
ぬうの義ちゝ箏の秋風
床ハ海彩解人の室の月
虎の毛ちゝわれゆく寄

くらうの薬池の蘭もとをふく
なまもえのくるる春の法くそ
三
勢ゑみ徐福の仙をのうつ家
まの毒ひとつ乾坤の外
瀬戸の玉金輪陳をかぬぬく
弁才天ゑ　能さくあ
ゑの月ほの陰ふ海ふのこゑ
ゑの波の不二ゑ見あの山
かんふ屑にいたるとゑて
尺よし風仏ゑふゑの法
鎮西御府をやゑ彩の雨
就四の系豆腐四五　丁

むゑ明石宿をくゑひの二ゑゑ
人形の恵風さくゑ
大火事を初めるゑ恵
ゑくしうゑる　松山
三
日本橋ちんを
方くゑをゑ作歌の深今
かいつゑみをゑ
歌ハうくつゑ御ふまの宮
信ゑ者ゑ芦のものいふものゑ
何とて松ゑまゑて尺ゆん
ゑゑ林ゑも第ゑまれ歌の
俗写の去を鏡のゑ

物語伊勢白鬱とよまれしう
玉ゆかの秋を癒ゆく　同
かみそうも内侍所のあれ月
のうしとあはれなる　同
衣服を既に除勅の花待て
かくの御簾をもあるの　同
名　岩鶴やまんとうけうる一ふすく
天子つるめく虹のつくる　同
その四隅夫門ハ手本を校くて　同
日儲の礼を勉魔はさむる　同
岩也ハうみよりさうる米の立　同

人とうくさ異くしんや親の五逆　同
彩をよりくあるの竹　第　同
いまの松ひつ艾柴の百まれ　同
寺松のをを少縫千尺　同
彩うう題訓今川寺る袋　同
さてくあるさよそ二条寺大臣　同
府の月堀をうあるひちまう　同
保陳ハいやうさ横町の寄　同
さ上く新蕎麦而をうけ切くも　同
大相の情くちうく花をう　同
陳氏本草を浅通する　同
青雲いか米沙本庭の対　同

蛍に蜻ハ雲に隠るゝそひかりて　章
とらう矢二筋ままならしの気　青
軍ハ花追手搦手もにらみ合　章
手なの何百きゝし鳥の声　青

同　[illegible]冬

阿ら何ともなやきのふハ過て河豚汁　桃青
寒さしさらぬ足の先まて　信章
居合ぬき霰の玉やひろふらん　信徳
拙者名字ハ風の又三郎　青
お座敷の御用も何ハ池の鯉　章
御茶さこまて下おかしハ餅　徳

碧海のほとん何より月ますみて　青
更るきはし小夜の霧　章
ウ
此耳やよそてははやしき荻の声　徳
難波の芦ハ伊勢なりおもいち　青
恋しきは何事とてもふしくなし　章
かたき小判や袖にほるらし　徳
物語よ留しのめる家あきさ　青
千両四五枚くれしきの色を　章
寺の住持かせ込霧花とそ　徳
みしらぬうちる談て肩つく　青
難打のころうれるすを之ふのり　章
あかり騎つて韓騎の功ほい　徳

[illegible]つきの切まを秋やなん
千一休千尺をたやの月　亭
花の時分朱鞘を跡ゆ夕雪　法
いつやきつけ岸の山ふる　青
二
よ壁川をもあつまる紅葉流　亭
秋袋ふる物数金多ゆく　法
風をく物枝百年剣さらん　青
壁印数の紙のつつる　亭
双六の書簡をとる仲達　法
宿生の御をすくひとる　青
月の雲を為四金谷の三流川　亭
かる風流むし測ハ竹ふる　法

小蓑国を大地のうみ鯉　形　青
孫の紙樓流とるしく　亭
一二軒行きひくなる　法
月ハもるしの親仁友ふる　青
養蚕をれるひきしく　亭
胸筆用のすきみふる　法
二
秋風を米の秋風宿風子　青
象手るをしふる俳の筆雪　亭
硯を抜て石硯息恭ふる　法
古時地義の茅原ふけり　青
塔ふるを人ふるひふる　亭
文正ふるを是ふるなん　法

今ハ[illegible]新[illegible]
物[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の二[illegible]追[illegible]
何[illegible]
月影や[illegible]の[illegible]
[illegible]元[illegible]
[illegible]
[illegible]

三

上[illegible]の越の[illegible]
百[illegible]石[illegible]
[illegible]
[illegible]

素堂
法師
素堂
法師
素堂
法師
素堂
法師
素堂
法師

掛[illegible]小[illegible]
[illegible]
小[illegible]
[illegible]入[illegible]
海[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三

二[illegible]
三[illegible]山[illegible]

素堂
法師
素堂
法師
素堂
法師
素堂
法師

萬代の古気質しと呼ぶなる　青
質みなれのてか翔云　幸
四季の浦波うちよせさく風も実　波
不首尾さ隔る河岸の渡舟　青
お八汲入ならく汲ふるしる疵　幸
松か根まくる石の孫とる　波
清しもや化女の机へ敷もの　青
尾花の花りて伴の月　幸
秀きて嵐の山しけし行く秋　波
涙しみよる窓きりの露　青
衣裳能の姿うその寺花の風　幸
身ひきの人の顔さ白歳　波

名
孫の為一農二百姓ニて　青
作の前八さゞふめて八万久山　幸
今のたぐ引電手来ぞうし　波
幽霊と来て嘆咲のかぬすみ　青
世継ぎの橋の上より落さる　幸
新合学の可く出る里　波
祖父祖母たゞやおこゆ若しくて　青
鼓をいしやる学雑ゐきく　幸
米俵ひそ強て肩子のけ　波
木綿の夕風乱三郎　青
弁財天も志うし体ふる飛御　幸
わきやもきと出る川舟　波

もし宮こゑ追手鳥なる波の月　青
すハ詩人ゟ芦の穂の声　章
さゝ物の鋏振舞する了律師　徳
木綿子の尾山の端の雲　章
人形の鍬の六よりけかし　徳
たゝよけ千かへる芝居淋しき　青
けい箱茶屋をするなり七段まで　章
信よし詩白浜こしの海　徳
浮路深かりひるかへの色こそめて　青
神代以来松も入の春　執筆

延宝六戊午春

さそれ浄瑠璃小夜ハ夜の花　信章
うすみとしもに笑ふ人形　信徳
青嵐両吟ふ山より来てしさて　桃青
かくしけの滝のえ八のむ程て　章
南はうく岸の浪の淋山舟　徳
海よ子なし所友ちら　青
玉露はさひしき肩の香なれう　章
ウ
松を詮擦て礼金の秋　徳
手をうけもの服のやうす覚えうる　青
思ひのまゝ川をゆへころしし　章
本路を四時なり夢のすがりかる小　徳
門深としたらくやかし　青

強田屋進退もあるをたのみれて
二人の若衆 浪人小姓 春
作事をちきれんとしもけるを
法師やつけ跡をの母衣 春
心をあのさのはく赤をハ 法
浪せき入て 大釜の同 春
岩風雪地獄の苦くさうはを 法
殺 扶 解 の 苦 ひを 解 く る 春
法の月法書歩の法 猿 春
猿の内 幾 春 宝 の 春
二 羽を取 和ふさうする花 先 法
神 尽 さ て ハ 安 帯 持 る 春

猿の尾入法の法 春
の月尾ふしと鶴の尾ふ 法
山うけ 鶴進 岩 春 松の春
三十三 春 松 たてる 尾 春
百帳や 俵 成 仏の春うけ 法
宇 業 法 法 小 俵 新 費 春
いろは 顔 桂 主 山 春 春
春を 猪 猪 子 叶 白 俵 秋 春
新 ふ ふ 出 月 法 の 春 松 春
法 の 春 法 松 春 の ふ 捨 一 松 春
智 舞 さ ふ き 無 を ふ ふ 峰 峰 春 松 法
ま ま い ふ 法 毎 猪 ふ め け ふ 春

二

俗家を人しいのそとこの発しは
意思と朱ろく姿ハ千　まま　寺
西之ゝを家れるものかゝ　寺
らに色書ゝ　法
おハ沈東殿山の大石　き　寺
花のさうに所中をふ　寺
寺格の数ゆいしくやハ　法
奇景を　ものゝ　寺
書ゝ　法
先章ゝ　寺
忘のたを寺れ陸ゝおきけ　法
沙寺所使風の玉　寺

心中ゝ山林竹木拾きること　寺
未寺の庶石芸挑和の月　法
三　十才の和尚のゝ寺秋ゝけて　寺
除地ハ一ゝさ清やまの秀　寺
量のいと沮所の庶深　法
ゝのゝゝものゝ吸篭のゝみ　寺
老の洞ゝ人ゝ　寺
首ゝけの過ハ性ゝ　法
ゝき中ハ一ハ年進ゝ弱ゝ　寺
奇ゝの書ゝ霜汗ゝ　寺
志ゝハ寺大花寺の雲おまゝ　法
鞍ゝ俗西ゝ床入の山　寺

義宗うとかたの八義左郎　亭
かつらすのゝ和右近ちうん　法
雲の月　橋の精ゆゝ　桂　　青
すゝ山　三　悪性の眼の光　陽の孫　亭
　　　　　　　　　　　　　法
　　　　　　　　　　　　　青
　　　　　　　　　　　　　亭
　　　　　　　　　　　　　法
　　　　　　　　　　　　　青
大八やさのいまの忍ふん　亭
日庭をめしてみうの船　法
山荘の柿　稲の尾うけ　青
青雲の月　白明りきしゆく

宵月雲の市寅のうみやゝのうちん　亭
ようゝ松ゝ　谷陰ふ　月　法
山ゝく海舟　陽ゝ　青
海雲のゝ　桂石ゝ　亭
白雲ゝ　花の雲の俳諧ふる　法
名
鬼　瓶ゆゝ　弱いゝ　青
延坂ゝ　中宵ゝみ引ゝ　亭
山ゝゝ　山ゝ　三雲の月　法
雲ゝ　紫　　青
松風　蓮ゝ　法ゝ　亭
古物の庵の芦　紫　立六夏　法
楚　玉の加ゝ　桂河の秋　青

郁郁の黄の新芽角ゆく　素堂
よくしゆくハ今あをを張る
ものよう十万億と鼻の先　青
糸おろしそめの武蔵野　素堂
音楽ゆふ方三味線あいの山　沈
四竹さハく仏の御仏丘尼のいろも　青
姉係そ御仏丘尼のいろも　素堂
係ゆそやそのの仏ちよ　沈
ゆつるき黄金の膚こそ　青
小鰯みのゆの草袋　素堂
旅枕酒くさやきし物ゝん　沈
鶴く仮ゆちきう焼そ　青

そのゆきそれくく汁のよう情　素堂
遠理の英社のしを持ち　沈
宮や花白ゆ宮ゝ焼茶子　青
白ちく帰りう明幕ゆ乃　桃青

同年春

物のよそ増やや古郷のいのの　伊徳
作く青そ百姓里す青　桃青
峰ゆ雲のゆ茅舎多年ゆ　伊章
ゆ人力の青風そそる　沈
熊つのひもくハ月のちくく　青
ゆ衣を学ふ物ゝの茅　素

雲の群蒙のこゝろひさ　法華
尾花う前手鏡かさす　寿
ウ
ゆさんいの高風の末を吹
丈ハ山伏法せみよひ春　法華
一念の解とし集くせまとい　素
かゝちハ鬼の穴邦いくく　寿
我ふの侍新ふのふようようう　法華
邦のいぶのきをををを　素
魂をこ枝の春やかつん　寿
法石をれすちんを引大西　法華
骨うつき忍ひ笠うを忍のくし　素
之ゆうふ捨ての春　寿

夕雪雲山風ふ法ふれの月　法華
本除さしさの紅葉うをしく　素
花手嵐河きちんをををめて　寿
絵をつのをを嵐くれゆく　法華
二
下原乃信食をを陶ゆ　素
勤山田ゆゆを二月中旬　寿
釋迦除手法式傳ゆちん　法華
八方法聖師古を郷ゆ　素
飯張や十方安界のゆれ春　寿
ん いのちハ　去の春　法華
いのちの地塚変れ志の秋　素
ゆをを変ぬ中ゆに杖をゆく月　寿

弱とめくに諸ずしくむらの声 沾
東諸か小まの外の一むら 青
其里へ石すりの文のよしにかり 李
珍子の涼木残魚のさみづせく 沾
出月忘れ山を甜代の青物くし 青
公家たりえぬ莫所の下し 李
二 笑風君金柑渕に枝扱な 沾
吹矢をしれて黒深井角 青
秋の末淡の皇后をゆかしねそ 李
まれ出竹むし曹たまりく 沾
売草をまて売し本つのれて 青
千業平に情人やまゐ 李

本銭をけ稼ぎ質へ千夏ノ時 沾
ひんむくり非に社尺ニつきる 青
出やらうまし安宮鍬のまるはつ 李
松江の滸ホまし店す嗅 沾
めり桶に鰻のまるをつみかけて 〃
平月白うらむくの黒鯛 李
花まるらん就のむくれ諸りもの 沾
三 父大隠の金つかすま 青
手花をや十二ひとくのうすま家 李
笈の中より杏山の月 沾
小男鹿の妻をよしれ乳房このまれ 青
に儀への松鶴むすし脚の秋 李

関西の掃部寮の官人
火付の業とし徒めくらん　法
本三位藤原朝臣　法
貢の業や知おこ　法
かさく宮子敏使の梅は兄弟　書
愛さう業　寺
子孫のくに陶の水名めす　法
混沌きり業は橘の広水　書
珍まの手中の官紙隠るひ　寺
恋のやうにく稲ひ書くう　法
三十　実うの走行ぬ深を付みく　書
いけの大寺　いつの沸一生　寺

多治家の三子拾四郎寺戸五郎拾の　法
地獄やふく水芭破ひや　書
小橋めの水の枝はたるむ　寺
滅金のり影振ひ波蓮玉　法
ま玉振木ひ作ひる神法　書
岩戸ひけて鏡所の尺世　寺
陸の文字一ふと竿定ひ　法
枕のかく古巻の月　書
秋や学ひ二代月の鈴ぬ　寺
ようの帳帯御宝義　法
花の枝続鞍言鉄きり取ひ　書
月笑れ蔵人春　甘草　寺

名

[illegible]

扨又ハうけさし足のひとつく　法華
良志はし下女としの義ひ手　孝子
赤おしれの旗をひのす　法華
風桶手引等の一白志気れく　華
綿　以ハ人を　穴　そら　孝子
紫えをを破れさ家ゆし　法華
器手時経をを本ぬ数橋　華
黒しく瓜の先かと穴ハあち　孝子
志のふををれすくを点をを　法華
意弱し内訳主まれ法を紫　華
乳母さく切ハ意ものの捕　孝子

疱瘡の祈黒祈るくをを星の月　法華
まをてや面を張鬼の家　孝子
翁を柿の衣器をひををし　法華
松をいく代の書張花ゆつ　華
加藤の宿を鼠手宮めれハ　法華
れうを枝を洗しく一手ふを　孝子
火雷ひをを諸をひくを毎　法華
若丞おを本所の末　華
江戸の京近寿以来の世をうわ　孝子
湾白ろを花ろう男素　法華

同年秋

於四友亭無行　似春

次広瀬秋吉賀長伯氏でも見ハ
なりの〳〵の海さしをくる月　四友
沖の石玉藻ら神の寄されて　桃青
見きゝられてやあの男しむ　〃
山ねろし小笠のうけさらとふ　〃
きゝ〳〵きこうもまもるめくひ　〃
弾海貧庵ゆ一つ桜さく　〃
禁さそ蓋しなれてらゆゆく　〃
めすうと三笠のまやゆふん　〃
火仕の酔ちゝくらきしう　〃
学難の風公儀より烈しくて　〃

海高先うた白牡の外　〃
玉浜中新たむさふも　〃
洲崎の松ひゝく牡丹　〃
ゝちし吉弥の新れを思ふ　〃
姫の条子　撰うふゝむ　〃
又や来る風屋門寄れ知も山　〃
青新四百八十月　米　〃
芳仲山うゝ武吉の世ゝう　〃
張らす岩をきつてのゝつま　〃
花の愛有の花鳥和め仕を　〃
書　柳ゝゝ女貧ゆれつる　〃
二
血の色章ゝみ幾ゝのまゝ　〃

胸のうちをさうそう素袋
結めしをやめ冥途とうきの季英八
対面の和れ科えを　ようふ
お和漢手きいまつりし芋うつ
富士の月ハいとくくきて
桟元やふんどし　伝こく秋の風
芦の九風手うつきのうう
海ようふれて　隔る浪の和と
さむの後手伝ゆのどやく
甲契ら和や伝陳の蕭ふ入ハ
日上人れ新てくけうう
瓦燈の火もぬ霞ゑ少和文て

神代の蔵まくる
ゆめれハ義ふとくく影ゆ
れて　筆のぬ　霊
お使手けうもく秋の事ふふ
二写ふとおくく文　の家
命の月やうう和諸をうまん
既手より第れ合戦使ふて
ふうくくさて文をえくて
てりちい付を男まひく
冷食を思一ロ手ゆくう
見生滅法生義　板　法
妨悩の苦をさんして棚さう

ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま
ま

寒むすまふ菴ハ残燭て　青
口惜の花れ散りやめく古郎　素
ふりまきてく郷を作らる山吹　、
三 ひよんな思案出られてや帰雄　青
あさくくし旧道後の雨　素
お情手はりの言像との本まつらそ　青
根方しみつれつる浪人　素
長安の霧より雲おす狛んとハ　青
菜ちらゆ手風寒きまゝ　素
幾月の中松らそらや随ふん　青
とても岩根の下女ハこまへ行　素
残清の洩もの丸をたて戯のとし　青

以下情を投てくみよる　素
老若賭の狭手てしおて　青
雨引るゝく星のうらは後　素
なとしく大の戸隠ての葉の月　青
三 三布を並へ初ちし秋　素
路のとし田楽海る就囲川　青
山ても肘あてすり粉木の音　素
隠しのうれよまをたく隠里　青
多き郷も澄さ仙境手入　素
句を桃灯おやまめらん　青
篝なやふまも杖と草履と　素
志手その役のれを札おいかゝ　青

衣を肩手にうけて仕合
酒手を白雲帯を解きこうし
秋風起て物もいふよつて 棒
雪遠を月の光さへ名残ア
尾を引きうて森のこゑ
師神鶴別れ花ハ哀 ものふ
つくしをたのもきて恋ひ
各 接けるる二ツのまるかいてて
うちおくこゑ玉のかうくと
雪降て伊勢の国柳さ散し
ふみ石ものつ井ハ十七
小鳥ア砂手むのひ雪ふる

寄生 寄物 寄所 寄人 寄事 寄月 寄花 寄鳥 寄虫 寄獣 寄木 寄草 寄水 寄海 寄山 寄国 寄都 寄名所 寄旅 寄恋 寄祝 寄述懐 寄釣 寄遊 寄祭 寄仏 寄僧 寄神 寄社 寄寺 寄宮 寄堂 寄庵 寄家 寄屋 寄門 寄道 寄橋 寄関 寄舟 寄車 寄馬 寄牛 寄犬 寄猫 寄鼠 寄人倫 寄人 寄男 寄女 寄子 寄母 寄父 寄兄 寄弟 寄姉 寄妹 寄親 寄子 寄孫 寄祖 寄聟 寄嫁 寄妻 寄夫 寄主 寄客 寄僧 寄尼 寄医 寄師 寄学 寄歌 寄連歌 寄俳諧 寄和 寄漢 寄唐 寄倭 寄文 寄武 寄弓 寄矢 寄刀 寄剣 寄槍 寄鉄砲 寄弾 寄火 寄水 寄風 寄雨 寄雪 寄霜 寄露 寄雲 寄霧 寄雷 寄電 寄地 寄天 寄日 寄月 寄星 寄時 寄年 寄月 寄日 寄朝 寄夕 寄夜 寄昼 寄春 寄夏 寄秋 寄冬 寄四季 寄四時 寄五行 寄五色 寄五味 寄五音 寄五穀 寄五倫 寄五常 寄五徳 寄五節句 寄五畿 寄五山 寄五湖 寄五大 寄五重 寄五輪 寄五体 寄五臓 寄五感 寄五欲 寄五戒 寄五障 寄五逆 寄五悪 寄五十 寄五百 寄五千 寄五万 寄五億 寄五兆 寄五京 寄五垓 寄五秭 寄五穣 寄五溝 寄五澗 寄五正 寄五邪 寄五行 寄五色 寄五味 寄五音 寄五穀 寄五倫 寄五常 寄五徳 寄五節句 寄五畿 寄五山 寄五湖 寄五大 寄五重 寄五輪 寄五体 寄五臓 寄五感 寄五欲 寄五戒 寄五障 寄五逆 寄五悪 寄五十 寄五百 寄五千 寄五万 寄五億 寄五兆 寄五京 寄五垓 寄五秭 寄五穣 寄五溝 寄五澗 寄五正 寄五邪

嗚嘆頭杓や啼息つくしむ　素
千手の宥菜既に秋きて　青
折ふし杉の春の丸くく　ヽ
より金の花郭公素の名残　素
山もうすみの底に気を折　桃翠

同季秋

尺涯をハ流れハ尺経ハ流下の秋　桃青
桂の帆たしら十分の月　四友
さらふ不ふみをくすゝ百病く　似春
山ハ弥々霧よもる伺り　ヽ
まぶた見え寄す鳴るも人や写　青

うけさハ々くしゝ備大将　ヽ
備まて御鰍魚鰊鶉のくし　素
香ハさらけり峰寄りしく　ヽ
跡とも花そ杉もしるまで寒さてしい　青
秋し絵さむし松物の菊まて　ヽ
金弥子寺拂ふてもも千代の秋　素
みのうれもるお屋所の月　ヽ
木綿莇山ハらしろよ去様　青
漂ふ秋ハ木蔭の麻衣　ヽ
みをと墓寄るをとうしみて鳴鳥　素
霊尺ハよそて吹森の本のりし　ヽ
杓残をも手得の枝の大くくい　青

光君のしるべ尋ねてゆく山路
供養するあれの袋やひろひあま　同
霜もものこころをしるまうすまし
花のもとを洗ふやうにおもひ　同
宗生のこころよりたとふれば　同
白砂の旗をまつのくさ敷る　同
ふねを行潟をかのめぐくは　同
春の雨くさ定家卿行きぬ　同
雲こゆれば月のまよ　同
八百年佛燈の光　同
狸のうつしめ本寺の秋　同
狼や香れ京の紫　同

鍔等く　信正　谷
一定等岩手陸奥方の伝　同
秋をおく他の淋を惜　同
ちりやすく切平の一村　同
袋の仏をうつ所の一村　同
雅を抜き陶の経寺より　同
秋の径の絢の火ゆ行やく　同
こさらく寺長持ゆれ　同
いくまく人をうつ物やう　同
陸の数素盞嗚　同
酔哉勝ゝ及ちて　同
おもくくかるくハ釋迦の光ちと　同

新仁井田氏はかやのはきくはきさ　書
葉小紋の羽織ハ是まで後ひとし　書
はきさ〻れ給の夕神山子入　書
節臨を木幡の事やさ〻き　書
賀茂ハはれとも毛氏を松くハ　書
編の屋いくさゆし里の月　書
又ゆけ〻き遠し丸山の色　書
はなぶ船新の東花ちをさ　書
うまみの写さ絵うむさ　書
三　主まや条掛仕さまつ内子　書
紋引御宝きて如しさ　書
はゆ〻まきゆ〻小屋系　書

はく　長　鯰　大　松　書
世事為先をうけんさ松形　書
葉ゆハ主本お寺ハ孝ひ　書
国家父様の無をまくふん　書
葉男長四し設をすひし　書
又主子孔ゆ字ハ右二郎　書
郎子はゆひハ義す袋　書
不心中幸子ひ〻ハ仏ちん　書
出ハ作角系かてりさ　書
志のふ歌ハ取ゆ子ゆる窪の月　書
秋を通さぬ中社舞は　書
三　家威の見ふ主ゆ新嵐　書

石に川めある山本の雪　東
大地震つゞく龍やのぼるらむ　素
長十丈に餘るなりけり　東
かりほその勝牧産く尺ましくて　素
魚汁激多より気色丁　東
ぬれ縁や小半われハ手盥に　素
粉糠にほれて妙南無さん　東
六義に伊弱の山和やて了兄　素
河内ハ生駒よし秋風　東
生れてそ飯（なに）匙（かい）らほす神の舂　素
鳥も渇るゝ網の手月　東
捨舟のさます浅鬼茄もなし　素

名
素半より西瓜八し　東
新道に洩氣をてのあすうす秋　素
代八車沙幸めつくし　東
何にする係の与三郎大頭　素
たいけ行ひみよし地耳に　東
口香ます出我柳て候らう　素
ろゆのろ飢より赤になへとし　東
笠も和つくやたくのほふん　素
菓子割て粒てのむ　東
庭手稽の菜数寄まうう　素
織部焼ある峯に回話　東
拝一ッ茶民られをし賞翫す　素

けんどむ葛まや山の湯はあ　青
小雪の雪手洞つ有も自　青
屋平　沈む　鄙家　の　家　青
響　風も山　雀　鶏　かから　れて　青
かう　れ　た　天下　おれ　うち　青
ぶハ　ま　れ　う　ま　人　形　波　風　も　青
海士の　愛　う　し　ハ　秋　の　ち　く　に　ハ　青
ひ　ち　う　嘶　苦　火　ひ　う　て　秋　ま　の　青
八　雲　豆　腐　み　と　も　ま　し　お　い　青
面　新　社　秋　ち　し　一　大　根　な　ん　し　き　青
あ　う　降　る　ま　う　ま　む　秋　の　月　青

同季秋

のまれう　秋の大雪　江戸の秋
月のかたち　全　月　有　似春　桃青
菊　ち　の　雪　久　き　ち　雪　て　沈　青
海　舟　ひ　雅　ハ　行　浪　ます　沈　青
雅　の　秋　い　ま　う　れ　秋　の　風　青
与　仮　ひ　ま　ひ　ち　仙　境　て　入　沈
ち　ま　ち　ま　ち　ま　の　上　ま　て　笑　沈
い　つ　も　秋　る　れ　し　沈　青
海　所　う　る　て　お　海　ハ　し　青
ひ　し　の　作　海　ま　れ　ま　ま　む　沈
む　ひ　て　ま　き　ど　の　雪　け　ち　い　む　ち　青

春泥

釋迦にさへいふ此年のうしろ萩　　青
不作しらしめ能行世界の錦の花　　湾
鼓の二つまくらに寄せて桂此　　素
小芝居を見る秋のしのど思ひ　　青
鬼らしくすると生猫すて　　湾
天も花手妻の誘雅かくれ刻　　素
二
飯のこてふれ此寄手あり細く　　青
寒き露も猫八郎てれはう寄し　　湾
通つ辺の二ツ手算八もうるみん　　素
萩の手も名ある茸此されハこそ　　青
金輪際より高山の雪　　湾
毘沙門此鉾のきらる秋の秋　　素

かゝる首の姿ぞ月　　青
蘿舌に八ツ手やさけぬらん　　湾
出勢文手紫のれし中　　素
其物右近か歌を逢しても　　青
古川のくずぶるを尺やしや　　湾
気高手バウ此二けんの枚なし　　素
二
日待手幸さす山得しきれ　　青
やまぶ萩も面白目覚すみちやすき　　湾
秋のいかゝ手句ふ焼みそ　　素
内裏手寄此嵐やみるらん　　青
松ハすゝる入花お風　　湾
花ハ衣袖ハ錦の長絹さゝ　　青

朝そりハきむくくらひすての聲　春

同　似春

青葉より紅葉ぞ旅きそきつ

みつと幾しほハ然る壱山　春澄

新枝手かゝふくろ有の新酒を　桃青

庵浪ハ肩を京ゝつ高り　春

氣よりきゝ去の木まゝめる秋の風　澄

天下一休同錦ゑんて高除　青

流る雨も讀のすけまたゝや　春

やよ勤しら天帝のさうし　澄

笑へらん不変不易さまをあ兮乎　青

豚ゝりゝゝくハ古ちり聖　春

ちか親子もろの得さらへてし　澄

角風花の庵ハ読書の春　青

出女井玉依姫ハうれしと高や　春

細代もきゝ寸百文の恋　澄

霊雲の枕草子をふしおみ　青

本かゝ帳北首ちまゝ　春

まこと中秋儒者一人の月澄て　澄

惑ハ庭洋然洋の秋　青

二 恍惚おのがをとされさう印の杢　春

とこゝいふ百千志るし初萩　澄

子う裲の落髪と生れさう　青

小町ゝ冥土　女方　とも　素堂
恋所詠ふきんへ命うるも拾ふ　青湖
告手ずのきてく〳〵に涙（なみだ）　素堂
あく稲荷ゝ　しきみを思へゝ　素堂
秋の夜ゝ　後ろまひき　青湖
計立ち宮殿　偽者　素堂
秋ゝて　ぬ船ハ　月　素堂
ゆゝ　柳枝きの　ふハ　山　素堂
四五文　ほとゝ　ゝ　素堂
二ゝ　夕　ものけ　ハ　素堂
ゆゝ　ゝ　ゝ　ふ　素堂
竹戸　柄　波　門　素堂

漏きゝ　くしまの　塚　素堂
山ひとりこぶの　根　素堂
耳せくかくす　岸　素堂

同

桃青

ゆゝて　ゝ　ゝ　ん　素堂
点ゝ　ゝ　波　野　青湖
川波　柄木　新　ゝ　似青
手手　ゝ　ゝ　ゝ　素堂
又ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　青湖
ゝ　ゝ　山　秋　風　素堂
ウ　ゝ　ゝ　素堂

泊まるよ　同
海面や松の間ゆけば悔むらん　同
嵐の吹く湖の夕浪　同
松小舟米俵の沈さひ　同
笠も簑も多き生　同
とゆくれハ女ハ貧報祈　同
大海をこいはてて　春
一社の月八合の刈ふ立て　同
ばとちて多しし小男鹿の角　同
数芝ためれて和歌の雨の也　同
生ひ出ちをしかとして　同
二　麦飯の井や夏ふ霧むれ　同

妙ふ　同
幽寂八秋海舟　同
さの仏八千とひ　同
秋とこの金龍山や　同
智天寺くはをの浪　同
帳面の志矢多　同
多つて手八石川を　同
まの多ひをすの　同
既千和尚平や　同
浙の月桂河さ　同
ほ家をおくる　同
三　古男のひよ　同
ちれら秋文さ　同

鄭の宋子志ん らるし 鳴
産むすぎ後みこ 飛ぶ男ん 雲
ききこまものまむ 天のこゝ山 雲
休泉姫のよめう 羽ふもむさく 雲
古策子 仲人の子 淵

同 桃青

宮や角 百ゐよ金の 通り町 二樂子
夏子 数寄 ぬ春 板の春 紀子
新蕎麦 七三四から れる四郎 卜尺
芦の紫 ゆうし 味 る浪 二樂子
基 恵 柄 小舟 ふ ゑ

ゐ男子 そ与 市 その 財 桃青
ウ 奈 を 光悦 流 れ 卜尺
某 草 喩 示 く 寸 ら ゑ 紀子
去 諭 の 伝 地 の 段 を 裳 て 桃青
ゑ を 大 そ の 子 緑 青 の 山 二樂子
隈 ら の 峰 ら 月 の 蓑 う 紀子
秋 を 中 布 北 ら 庭 の 山 風 卜尺
桂 多 の 鄭 爲 寸 ま ら ゑ れ 二樂子
精 を ゆ け 北 三 位 入 巻 桃青
か と 蕎 ら 紙 る ま ら 月 卜尺
又 屋 き ら 陸 ふ ら ふ く 紀子
学 北 右 ら 金 る を 祝 ら ふん 桃青

詰田の松くに博変こゝ一さく　二葉子
毛鎧を佛門の国うち錦のと　紀子
てらや覆堂深茅すると　卜尺
強れ袈裟の名のかゝひ法衣ちよ　二葉子
前手羽ら郭ち　とぶ　桃青
押入や淀のうゝゝゝ北家陽子　卜尺
織まの老し物衣室の森　紀子
能支事を時の松こゝて　桃青
反様うゝゆくゝゝゝ　二葉子
乃郭と方松のちのえゝよい　紀子
俎板の　月　拍弾の不二　卜尺
青の秋三子俳人の拂物　二葉子

釋かもこのもとと矢蔵の冬　桃青
放物子精金のうゝをつりい拍　卜尺
大板こゝもを毛のこ紅る　紀子
郭明の火入とうやゝ是とうわ　桃青
鬼一口子伽蔵を吹　刻　二葉子
蔵の時子方といいし茅瓦し　紀子
恵比こをこの王代の書　卜尺

同七月未考　桃青

こゝれ子恵菜子つゝん手の雪
荒籠味噌こし岸侍ふ　至　千春
清風の蕎麦こ鎧こ方河こ　信徳

強弓絃衣おもくこのけつて
嵐とうら絃する身の入さや　素堂
鼠物けしきハ新絃し　沈水
ウ
ゆく往しかハ二ハ世の初尾也　素堂
百みるうきをくたきふれの秋　沈水
仇しをかるうの穂分の設きハ　素堂
ゆうゆしハてのいち十六霧深　素堂
又男ら姿かしらかるわと　沈水
古い羽物手光をしるうる　素堂
つくしく泥金のやを霜を重　素堂
弦のとをぬさんへきうの家　素堂
強かりまれるうの月　沈水

色井子蔵うの月の細竹　素堂
料理人沙弥をを立て筆の浪　沈水
木を屏の扇けの素仇　素堂
二位吉の設千ま尺あ小戸紙　素堂
簡の旅松強ものをとく　沈水
きくだくに雅紙雅と初も続うつ　素堂
枕あるくしし紙ぬけの果　素堂
論をつす天の深をし中強て　沈水
經の品おそ千強をくしうか　素堂
滑川ひのう丈子火を屏　素堂
ゆうう家ようう羽筆の風　素堂
いをうきをう利久と川一法沙弥　沈水

初秋茶の三部しき秋の月　素堂
出の春つくつくと一夜ふる雨哉　法
いさこ長しさ石摺の春　素
とんとれさて成時をいそぐ雪　法
国生の末葉ふるる十四竹　雲
別さやさ乞食の妹背もる蛍　法
うらひしを修羅こまのきめし　素
思い川始終さ七夕の新霧　雲
青柳や稲荷の流つきの素　法

同年春
芳想

きけしうこ月白和歌の浦　桃青
天下の秋のけしき出て素　松風
面白き嵐ふるる坂さきて　伊賀
ちるさ嵐子雨くる雨　気
雪雪ふる赤ん鳥れほのしと　越代
谷の戸口子うるる秋　松風
上く吉ふるの山吹所　而巳
ふ里の雨さ金笠の秋　牧筆

同

ちつくや夏雲子岩ふる岩の紫　桃青
凸を志ふるふ樫の心　秋風

まくれ桐の夜袖肩まくりて　風
こぬ夜のこゝろしら風の身の憂き　青
何がしの餅まくる堂の出　丶
樵子ともに峰の松ちる　風
御前のけ岩根の床はさむき風　丶
あめの河を分けの手の末のしら浪　青
ウ
茶巾さらしし袖より袖へ風さそひ　風
何にも軒端の垣の何　青
五十点あまり中まで泣しさけ　風
ひとしおに雨を絶戦の寒　青
随縁に乞ひてくも瀧の氣　風
青羽何へしみ松ぞ姥捨　青

小栗明日思ひきやひとつ寝まで　風
そのあの行のうしきぬしの末　青
風毎に小倉童子浪こして　風
夜吹捨る結みつゆ　青
白雲に秋や彼岸鷹かん　風
ろく志やし書む山の大き月　青
鳥の峯色那都に寄る花の浪　風
雲もそろひ夕になるかきつかう　丶
二
なき板橋にまた志る玉の露　青
嵐の給えて方なくなり　風
米俵ふるまへまゝつくれ　青
四方の歩み出たす敷きれ　なし　風

[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

三

[illegible]や[illegible]の[illegible]千[illegible]む　高風

明第[illegible]と[illegible]ハ風[illegible]る　し　風

[illegible]竹の波　高

[illegible]　柳[illegible]　風

小法利の[illegible]　高

いろ[illegible]　[illegible]を[illegible]　風

[illegible]の足[illegible]牛の[illegible]　高

[illegible]水の桶[illegible]　風

上方の[illegible]　高

[illegible]　使　高

[illegible]　風

[illegible]　高

若[illegible]　風

[illegible]のよ[illegible]の小[illegible]を引[illegible]　高

三

一汗[illegible]　月

[illegible]の[illegible]浪や[illegible]ん　風

[illegible]の[illegible]　高

[illegible]の海を[illegible]　風

[illegible]小[illegible]ハ[illegible]　高

開闢の天地[illegible]　風

岩戸[illegible]　高

[illegible]鬼の[illegible]の柳[illegible]　風

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]　高

業力の[illegible]ハ[illegible]　風

[illegible]や[illegible]　高

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれぐさ葉子もいはぬ花ハしら　高
ゆらのくらう山里の　春　俊

次韻　大和元年丙

表題

背伯倫傳酒德頌樂天繼之

酒功讃青追ヒテ續信德七百

五十韻

二百五十句

ゆくすゑを変ぐハきふんあれと

三　又うきわすれのまもりくく

ゆくのゆ雄子脆出く雄子くく　都青

宣句以ヲ莊子ヲ可レ見ッ矣　甚角

孫賢り力ヲ仕ふ朱ヲ仁　才磨

きくくくくれ杉子枕のしき　楊水

ゆうそ生くいなきを待るほくきく　角

物心くくゆくも後しきん月　青

徴角ゆくくゆくくゆ山の木ゆくく　水

梁ゆ科きく　泰くくの宋　磨

使ゆあ画屏を宮ゆ咲きん　青

恙出ゆゆゆ一ゆ一ゆくくゆ　角

本のくくゆ七食ゆ杯のハをゆ　澄

先祖を人一ゆ　水

物をくくくく逃昊を咲ゆへゆも　角

[illegible]

三ノ

武士は又まことをゆるすべき
女ハふくすべきをいむ
さゝ[illegible]ゝ隠れ[illegible]ゝ恨ゝ
ゝ[illegible]は猫の身を背ける
家を富ゝ思ひ易別易き志
乳母の穀の陶の菊の葉
吉秋を花と食といとゝ
白魚をかなとよう餅者の寒
実雪は[illegible]人他合をけう
婦士提灯を枕しゝ紙の
くゝたゝゝゝ女房の[illegible]ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

柏祝子初寺社魂鳥の魄　素水
無人は狩子似るかり見小
雨ふるとうるかの風う寒　廣
夕雲を見て帰りを吐井もい　素
民屋ゆりき脱をせくもむる　角
笑ひの木無う芋は死八時く　廣
まるく寒わくう婆婆の古色　水
月見きひ方絵うる角蛾しくて　角
あるれと文をしかしる粉まるう　素
秋夏しい初よりなるものをぬ　水
初おおるるれ山ゆるるるる　廣
見る無右神宮は寺特ゆう　素

鄰子菜供　角

同

雨子波と不文字をしふ　其角
素淡子と稲荷をしくるま
ふしは秋寒をを菊受さ　才廣
月を来子をるる烏帽子を加ふも　楊水
寒子陶をおるるけ——や　桃青
松月をまりをひ学は坐を志こぐ　廣
以やし山詠子鈴ふしきるる　角
夕雨ふ雨をを吟子から八来て　素
秋盗松風のをを風子　水

ウ
而の関を開きすけて敬を計をとる
角
書甚を家に此度板打戸
廣
とひとつに仁と事を事をて
水
やきんさを事をを也しく
書
病をを俄をを物の隨を招原沼むる
廣
はししはいかく帳の武宝
角
女の家物をしを法度く
書
若宗寄のしくやつを湖を
水
ストレト第入若しくハいをも
角
取ひをを特夢つのまつる自
廣
秋の書をを原沼をを待をを
水
若の院に沙陸をを
書

先刻を人ハ若干ひをめる
廣
子国の書を寅を時のけて
角
二
軍地翌を家を書を遊ふ
書
勢ひしをむを廉しの山
水
家を家女子1蜂めをひをを
角
よを原東をめをみいをふ
廣
椿軍勢の付きをすつて
水
ひを向に付をを梅を弦ひく
書
家の力を沼の王ををまを
廣
廉河東の若林國を生を
角
おをを於をを粗廣廉河沼原
書
ひをしを首をく沼を年を次
水

板の合はせおしく宿受うけたハ
既例かうさく再て紙を
自の秋うしみえうに社且夕さ
寄手さのうむ妹いい義娘
二
まのみさく続手うに思ひ弥くんよ
紙と風まり社無寄てい法
小納このま本秋ゴ事さうに和て
納戸の弟を有しに系る
蝶掃さ禮用於鯨さ脯
庭しの翁鹽原こうて入
思いくなまくかうふうに
甚百手こまれ拓原をたく

角 唐
水 青
角 唐
水 青

探しさ白骨の陰裏自てたう
ろそ利彩法をようぶ長し
孫小偽豆殻こて身の法を刺也
宵を少こを色蓮こをに
花のこの翁手年を直きうし
機手こ翁を つうまうこる妻
三
小茶こひ白こまハさまの寄こと掃
箕こを花こを寄こく社こぶん
本のうしに社かうしの枝こ芝未干セル
山青 時を 抱こうを うう
忍しひまこ人ハ地義こしのさし
木梯のまれしこを木八の唐

角 唐
水 青

羽衣を鬼打の竹箒遍しる　角
踊　形衣此袖子に残る　廣
海の月佛仏坊主の夕葉こ　水
吉葉おうしやる美の泉水　青
河骨孔雀こ浮れ雀をもやつす　廣
浮もこそ多くこ此火と化　角
蓮池の根の底こ引こめ　青
天火く闇の金魚の目　水
三
枕江の残水岸ハ青く浪こ　角
青海苔こ白い蛙琴を弾　廣
花の蓮孔雀こ千鳥伯を賞こ　水
身こ秋こ東金の仏　青

きりぎす浅草こ麦こ蕎子す豆腐　廣
夕こうほ物もく負花ひしけり　角
桃の木こ蝉こ鳴こ宿こ　青
秋の清こ夢こ蕎麦　水
蕎麦の香を泥と松魚こ炎暑　角
秋一雨こ仏こ花こ　廣
蝉つくを蹴掛られて小金屋　水
泥特清こ命の火青し　青
蕎麦の花こ古墨こ蕎麦の　廣
秋の男兵足こ　角
配石人芋の小名布を干こ　青
こ名人の蘭幸堀を枕と　水

[illegible]やとの朝千計さき小舟　角麿
[illegible]尾為行を山　山志
[illegible]畢けは蟹の実[illegible]　水
勅使　芋原の[illegible]　寿
[illegible]　[illegible]　麿
[illegible]やきの[illegible]れ[illegible]　角
[illegible]の[illegible]生の[illegible]の秋角歌
[illegible]　淡不知
[illegible]　水
[illegible]　角
寺[illegible]の納豆の[illegible]　麿
[illegible]の[illegible]藤花[illegible]里の光を[illegible]　水
[illegible]　寿

[illegible]腸をそ[illegible]の[illegible]　角
[illegible]　麿
[illegible]の戸を人[illegible]女の[illegible]　水
[illegible]　寿
[illegible]の[illegible]　麿
[illegible]　角
[illegible]　寿
[illegible]　水

同　才麿

[illegible]
[illegible]　楊水

ほとゝぎすハ第千年新しく　桃青
鮎さいすゝ生海鼠断く　世角
雲の宮みられの宮とあるべくハ　水
義経の尊千鳥を投る　麿
乐やつこかられて風体林と呼　角
杉千本杉そとたてゝ　素
蜻蛉　きゝの安所のせゝく注仏を　麿
意ゆゑれしゝ　水
ゝ夏て牡の戸板をとゝ板す　素
枯ゆく高千丈　角
数能の住きむ長ハ蓮　水
年杉鶯の男ゆゑ　麿

骨ハかゝゝけ鶯のもろきし　角
疲ゝゝ千の新ゝ蔵うつ　素
内千翁ゝゝろハきの霧垢　麿
米ゝく音は耳ゝ寄けき　水
ゝもかびて美ゝ秋ゝ秋ゝ　素
年孫屋士ゝ知ふのゝ月　角
年耕す素徳の牛ゝ花つけて　水
蕎麦ゝ北ゝふれ汲む　麿
二　居宮の蔵入ゝ中ゝ強る　角
新ゝゝ上ゝ法ゝ高のさゝ　素
陸中ゝ年杉千杉の雲清の忍ふる　麿
提灯きつゝ素ゝつけろひ　水

風雨の角物と為を怪しみ
入れば出るあり 根子 の
雷の斧 丁 と
言く又 言 —— 就陰の玉
俗のいふ麻高の海れ底ふるや
郭の与れ 東 地 東 地 高
何を受て 諸 霜 雨 簑 を 水
ひとの (と 雨 簑 を 水
身を蒼 又 芋 の 葉 れ 汗 衫 高
梨 の 為 て 為 て 子 角
三 家 雖 の 羽 の ひ の 敷 (と 水
れ 吸 起 て 第 一 与 め れ 高

釜 の ぶ る 人 八 志 の ひ と ふ る ふ る 角
槍 を る て だ く る の 水 高
古 家 の 法 る 劇 子 き へ る 絃 ハ 高
い ち の 法 て ち 風 の ひ る ふ 体 水
麻 の 葉 子 生 る 小 解 を 打 ま て く 高
の る 粒 き ま る 生 の 海 柚 る 角
き る れ て 法 ま 味 と す む 有 る 水
め て 霜 葉 を 一 の け 海 ま 家 高
屋 家 の 食 く 法 に 夕 言 る 角
人 死 を 待 て 判 る 風 ふ し 高
石 ヵ 曰 家 の め て く 咲 子 る 高
木 る て る て 風 を 高 板 水

三

恋の道ノ絶ハ霧ニ出シキソ　青
強ノ進サル糸キラクレ　角
大根の葉越の関の通さう　水
葉の加ク鮭子文仕さかり　鷹
おとらくや火鉢の姫の綾笠　角
ろろひし京子蕭条引つる　青
ものしと翁入るくるくにしさ　鷹
面子首の位さたくすむ　水
やまひしれ恨ら系けめうけ塚　青
桜葉おし今時りーなく　角
ろろい有ま村風ちゃ三味線を　水
傾ーやすしき係ろ子この　鷹

秋の雲後ゆるるとしてハ　角
住村ゆるるく栄れ戸　青
三
ぬしろく雲ぬを物ひーて　鷹
係老ちるしるる苔の青云　水
意時の松ノ娘れ花の葉　青
葉ろ葉子秋る重の山神　角
トロし塗れ菊れ走ろしく　水
地の峯立ろ芋れ桜ひ　鷹
毎係ま雲居子仮の弦性弱ん　角
清水の国　麦　き　撥　青
河ろ宗法味方の髪ろてるに　鷹
老尼嘲れ飲乃ろ　水

去年の秋の末つかた
小雪降て庵は紙引き入
松葉の積りて芝しまのくぼ松いとう
名
桑の根にて蓋の高きを思ふから
見袋さすに宮の風雪をやり
扇形女ハ高く指うしさ
丈ハ二尺ばかり老ぬれ
ばさし一歩さすのと傳さやみ
彩なる筆の力高きを失
拾うに本と上ろう詩
佳賦の書一武者絵しやん

青
角
水
唐
青
角
水
唐
青
角
水
唐

皇道の道の道の
鬱斗を待の繽紛
竹一本の聚蘭から
故園をとくハ茶 腰
風の月趣の清雲を張ぬ
美ふ小徑の
山線をくいちの
篠の枝形を
見度の極を深く
筆をうたく
血を流す風吉
古書を取て
枕す

角
青
唐
水
青
角
水
唐
青
角
水
唐

行雲去手招之つるの角
松ハ酔しく酔入る 吉

同 竹無
附贅ひとり言手宜しく四ノ家 楊水
名用の枝を立し木茶 桃青
枯れ島村多ひ茶ひく 其角
春一種の四季 うを陸し 才丸

天和二壬戌春

弥とる春手実むつ百つし 棗城
き花伏しく春 山ふれ 子春

卜尺
晩雲
女角
芭蕉
素堂
似青
非雲
言水
執筆
謝子
尺

飛ふ春三陸の花をやくしけく
雨双古手 雪をはすする
宵しつ蓋の陳を過しける
せんしふしつ月の雪を仮
天方のしく宝物 浮やの洗を曲す
特 桐の夕 獨しを北山
孤村 しつ宝 風を恨むと
燈 酒 燈 手 吟をすむ
ふしく手しすハ山時小陸 寺
形ちれ塚を四向して 色
納 稲手しれぬ芋北ひくれ 折
小梅 走 瓜白 毎をしくさむ

悟りを開きの聖を求めやうと
修行の精一杯のいとなみたるう
ゑ御坊卒塔婆を写のまま 枕
八幡の内千金を輝く 燒
味噌樽千石家流れ和の戸ハ 豊
注文和のくく義の小女 蕪
為之義訓弱の尺入ハ 角
樽枝手地をきくこゝろ 似
二 功先の形をさしてふと 附
弥勒手系佛界手孤 燒
聲の代八陽の町と我しし 角
釣り釣りくゝ五歩一樓 蕪

玉流くゝ陽の土瓜を陽ゝし 豊
故の家遷手西をかくもん 定
枝ノ解説の偏ゝ枝を 尺
根のくゝきに陽尺 似
自義の書手海を買ゝ 蕪
弥勒書白西をひゝめく 附
衆文彼广夫つゝる清く 子
湿の横手餅ひけ 燒
寺の五蕪波中二帯手夕角枝 附
猫ハくゝ義のさハ 豊
三 ゆさう浮手蔵まつ龍 定
義寺の便 蕪

吹雪の新波のかしら清らかなる
紀の舟伊勢より尾張水
波八百浦まこもみるみる和うし
契情を稽古をさとる仙
こ宵事志茂は堂を堂ぶん
柳の枝に小雪ちらつく
庭鶏羽搏かられて反る
いくつぬ役人義理加は船
堂さこも院ちら行くを傳まれ
おしみの分け樽酒
袋は鶴を花ちおん
当座のみ蒔しきさ
様のなる

似附
堂
暁
角
吹
尺
子
益
堂
空
角

三

古事ものの月の三千
堂まのこもの堂を枝つく
山こもれこもに雨めけるやあぶん
郭の筋云ひ
寄に入玉義の風雲の風
こを新こつ不二の株上
松葉の紅父芳上
株ここ雪の密柳 秋スル
成下に火ひこの鶴生きの
旅小力は吼 ぬけて り
寺殿古和世殿の松子居を松
加すは云 堀ここ

暁
尺
子
仰
附
益
附
嵐蒙
暁水
暁
角
堂

橋上れ雪ハ降をうしなふ
西瓜ハ――――――

我ゐり 沈て 鵜の中を 吹
関迫 来 境 河 を 角
肩を 結く 短 舟 に 躍く 暁
真 ま く の 伊 色 陽 ヒ 塀 遠 蓋
篝 火 を 刀 で う け く 寺 の 山 葉
浪 ハ 井 猪 く か く ま す 人 手
物 浅 ふ 鹿 を ふ を く 学 ら ほ に 暁
蓋 つ く 白 れ ご ほ く し 鶏 謝
市 物 の 本 ひ く を み く 本 浅 ふ 暁
り 傘 ま ま ま ふ と 姫 と 男 と 葉
玄 蕃 て て 形 手 を ま け ひ ふ 帰
物 く く も 思 ま 袋 桃 灯 蓋

花の紅く 皆人 物手 浅しく 蓋
八重 ノ 義 花 かて 物 角

て和手中

世 ま ま て 伊 賀 の 山 越 未 の 蓋 松 風
多 ハ く ま く か ま む 武 い 義 世 芭 蓋
店 貸 の 宮 ま 行 輝 ま 寺 の 来 く い
と く と か く 中 く 学 く 手 ま み 風
黄 白 船 ま れ く 為 ま 物 の 月 き し 、
浅 く 来 い 浅 ハ ハ の 七 の
翁 く く き 伊 の 宿 千 宮 蓋 て
き の ふ れ 海 く 付 く く 付 く き

[illegible]
[illegible]仁の寺の山門のあ[illegible]
[illegible]の松ハ[illegible]ひ[illegible]る境枕
朱雀[illegible]
[illegible]の道はやう[illegible]
[illegible]
[illegible]

消物する手摺の幕の久らのけ
火鉢の付一の一二寸 作と
伺ものら後め 拵うる花のうみ
江戸千と上 座ふまくの 玉
一

芭蕉

同
玉の生ひ手を張る中の切
養子ぬ 紙 洞ね 紙 廉物
義の紙千 紙 行れ 鑑 一品
張ぬ 張 色 ふ 黄
面 張ふ 紙の 張 なら ふ
さら ハ 二十八 計 きん

ウきさら 紙や 武 名 物 絵 ト 上
後家 師 美 雨の 翠 簡の 底 から れ
から ら も 旅 ふ ハ ふ 名 省の 里
文 ら ら ら の ら 門 ら く ね と
形 ラ 重 張 を 買 ら 来 ら 人 あ ん
一 盤 の 粥 千 江 の 焼 瓦 舟
ふ 義 ら 惰 と 為 都 ら ラ
ら 風 張 ム ル 倫 乃 器
グツロ ら 鞘 ま 色 ら ら 角 四 ら
眺 萩 宋 也 ま ら ら 色 ら 紫
花 張 ら 橋 ハ 物 ま ら ら 以 ら
葛 尾 ハ 風 ト 張 ま ら く ま と

陽光の異屋屋敷の大工
嘉平 嘉兵衛 百年の 樂
[illegible]
[illegible]
無手 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

良宰の屋、小袖をおりかけて
紅白の菊風に乱れ、巻を 掾
鄭子の耶塔、面のうをくく
全人ハ掾を可ってなる
掾与社交ハ仏寺ゝゝ
上宰の弟と三 線
ゝゝ玉の掾を弾千 彩
密夫 船よいめちつれ
新のゆのゝゝゆゝ起ゝ
ゝゝと髪きゝ菊かいゝ
母の教子ゝゝゝゝ
ゝゝ殺ゝゝゝゝ

晶 逝 附 晶 逝 附 晶 逝 附 晶 逝 附

通教寺の院、雪を吹くゝゝ
掾光清を抱千ゝれ
玄風の池子殺をかゝゝ
ゝ十八孫を告るゝゝ
院の内子鮮宋苅月逝て
青嵐法社ゝゝ識する
風の絹掾ゝの芳をや掾ゝん
内野をゝゝゝ巻行の逝
新しき塚ゆゝゝゝゝゝ
奏を後社臣ゝいゝ久ゝ
お金ゝいゝ巻ゝを宴ゝ
琵琶も掾れハ酒ゝゝゝや

晶 逝 附 晶 逝 附 晶 逝 附

十年の三十年を老の九十九年
室のそらうつ合佛　ちをく　晶
蓮生て火を消紙まうう　芭蕉
物故うを　寒ふう　紙　附　晶
為ちれ蟬おそ海を買て　芭蕉
杉て巣をもる　婚婚のる代　附
俳諧の会　花の浮世人　晶
る跡て　秘　おくる　芭蕉

て和三愛　芭蕉
花てもも無系海ちく食ま
鮒ちを寒て　酒ちの　一晶

郭公て書　ちて味うん　嵐雪
ちて　体を　ちれ　高　桜　世界
身を得て行の夢を　ちて　嵐雪
浪のまに　ちふと　酒　新　紙筆
琵琶法師　朝　名　晶
朝て高　ちふ　紙　芭蕉
浪人の　ちを　結　思　白　晶
やふの一　紙て入　ちふ　晶
蕎　横　用　家　ちを　晶
蕎ハ退　ちう　解　を　奪ふ　晶
雷の初　ちを　翁　ちん　芭蕉
夕照　後て　松魚　夏　体　晶

芝情の後を持て那代より　品
角織手角をつくり紙体板　角
巧みに型の枠をもむく字の角　業
破蓋 徒ひ〻〻 結の上を次　重
紙解手瓜瓜を絞るさるし　蓋
つ〻〻きり〻〻の松浦に横　品
矢つ〻尺る枠瓜しの豊底　重
曼八和 ふさのうつきの紙のむ　業
枠入め新八六十の荊 ふ〻す　角
伴所手 敬重 ふく表し東し　蓋
人の惜曼 稚共の宵の屬子蓋く　品
枠 ふ〻ふ〻ふ〻の伴 ふ〻み　重

きさ〻ふ〻や情中ふ仲を伴ふ〻ふ〻ふ〻く　角
山野手 紙 ふ〻 紙を食る　業
姿弁の角ふ伯東ふ見後ふ　蓋
木 紙八武士の情　仲　角
尺ふ〻ふ〻き敬書を紙や柴枠　業
宮ひさんやこ伴ふ〻ふ〻ふ〻　品
晩の霜を毎手覚されて　重
孫ふ〻 裏ん ふ〻すふ〻ふ〻　蓋
宮る栖屋山の列をふ〻ふ〻ふ〻　角
枠手すふ〻手 澤布を湿 欲　業

同

酒債尋常往處在
人生七十古来稀　甚角

詩はきんと手をとる酒債哉　芭蕉

春一湖日暮テ鴨ノ島ニ鯉ヲ釣キ夷子関をゆるすむ　角

三線人の鬼を泣しめ角

角ハ舶くるきく俳の上の膝の上

酔の雨走くく　蕉

恥しぬ俳をとなふ所世　蕉

時雨ふさぬかくこのさを茅　角

俳句のとてくを蕉を蕉ふ　蕉

蕉門のおくそ蕉を蕉　角

一の蛭里の蕉ハ蕉ハ蕉　角

軒角ちくくくくを蕉を蕉　蕉

ほくくきく怒の雲く峰之　角

浮雲くくむ雲を食の夜　角

岩を花貧雲くくくハさん俳　蕉

芭蕉ふくくの陸ふくく尺ト　角

腐れくく俳句ハ蕉ハ　蕉

鯉くくくくくを蕉ハ　角

一句入の雲付まくく初　蕉

ふくうゐ出くく蕉くくふ　蕉

朝り二黄金ハ鑄ル小　蕉

足角くくおくくゆう氣　蕉

枯藻数茎堀の角を出れん　角
魔神を使トス　海のさま　益
鐵の弓取たけき丈夫むよ　角
虎　猛　姫　ほのつき　益
い　色く　四隅の体を吹あし　角
押大潮　指のもし　吹　益
下国　后　彩を　妖　角
面　瓜を　綾　角
二ツ　長いの　宝　堀　角　益
みちれくの　東　し　面　角
武士の　羅の　九　角　故　益
八方の　的　を　生　角

行あきんと　花を　食ハ　徒　外　益
春一湖　日　暮ヲ　驚レ　無ニ　吟　角

同

一事三百六十日
面白　吟　三ハ　向ケ　書き　李下
能やく事やし
安き　大　根　く　舟　世　角
自分を　年の　踊　枯つん　い
こ　ろ　き　書　よみ　ふ　ち　ア
百を　舟　と　秋　を　く　し　い
傾婦　を　業　の　時　ら　ら　角

敵の陣屋を焼き
ぬ　一番の敵
文育丸金物八寸を持て
みんとす　駒之助
世話を志の八郎と
士峰の命を受むかひ
松平丹下守戦の後
為手にかゝし黒木津柳
樹葉の若衆に男内ゆの
吉一番乗とゝのふ
月の事ゝ生情のうれ上戸や
世ゝ志ゝ為ゝ并藤

一　一　角　一　角　一　一　角　一　一　角

二
敵の陣を焼き
院の陣屋ゆはしらふ而
敵を大為原小弥を思いむる
仕弾とゝ八幡のとゝ文
吾陣子女房子を彩むれ
霜みしれかし地とゝる
筋よる鎧骨何を世情
思ゝよゝ切箱の紅
破ゝゝ冷箱八秋のむのゝ
ゝ如敵の松子嘲を慎む
矢身の箱八陣ゝくゝゝ
金槍徒子粕ゝみを初ゝ

角　一　角　一　角　一　角　一　角　一

二

衆生苦を無量誓願度せんと
すり給ふ事 如 前 正
寸法御切の衣仕立不 芭蕉
皆を力むる幸 婆大 小 正
仏の名門を天竺よりの
元文三百人の 事 この 角
ゝ

寛文十戌年 助勝

天竺をさすれ之則を仏と云
文殊ゆるす 正教
加持作り法花経 宗房

同

拾八寸の玉 右力の一紫切 長忠
くふの矢の根 つよ秋風 定教
冷しき石ハさるう虎千似て 宗房

同七未年 一百附

唐の美物 ものの八ら紅新和
くをたらけと 御ゆり 宗房

好生 命のひと みをふるひ
志和の 餘 ものつく力 方

物う痛さに耐兼て
枕さきに立うるひて酒をかえん　方

延宝六戊午

大弱屑の物もともに不二の霊
故手さしれ舟田子の浦みる　飛青

虫の聲白象とてハあるまられ
瓜の井ごの宮巻う　〃

孔子ハ鯉奥のさしみ好てれ
花郷する養去の頃千角更て　〃

沈雲巻居うう帰し
義ましさ物刈萱しやし　〃

物多鬼の餅食の生者
南巻や酒物の菊酒末迄　〃

歌物手大蓮熟の若を交る
仁義昔義手物を寄きて　〃

猪鹿のおこうふ山尺して
大宝の伊年和英家と妙後　〃

雁のうつす墨のや入めるん
大津京良石の浦波
我先をつくらいてよんしと
敬手うしらを尺をる尾つも
相ひとの物の言をとめうら
るれ人写をぬのみその出
玉の書うら雲れ秋をくう
石湖寺ハ行テの海浪

ますますと尺れハ紫朱
中うつうつ雲をきんうう
うう春既手雲雲雲時ハ
御春をきをる強金の巳
物のう書葉波の末
世界をひうう大物祢
去婚手をう
物綾写ま春のう海浪

上八幡さま　中ハ竹　笹
をまもりに祇子物とりの種をえ
四手かゝみ長　物の　ゝ
送り給ひ　ゝ
為の鎮手さま　海手流め社
女院　祇子の二位の尼御　ゝ
大原の退屈する　ゝ
時雨焼の古つてき稲葉山　ゝ

宮ゆ　ゝ
みの　小槌　ゆ　玉の　ゝ
手響手及ゆ　ゝ
芳蕾のう　刑力をとぐ　ゝ
祈手ゆ　似　ゝ
見も又ゝ　ゝ
宮殿ゆ　ゝ
苦悩　本　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧一葉集附合之部二

古學庵佛子 編
幻窓 湖中
坎窩 久臧 校

貞享元甲子歟

野水

雅白玉枝の雪竹ゝ雪ゝ似たる雪
たそやとゝばる見れば山茶花

若子

雪の玉水手風に仮ゝをそ
うゝらは雪をふゝみ赤 る

重玉

幼鮮のかゝうすの白ひあるを
白のうゝ(ゝ)手沙手米を 苅

杜國
正平

水菊　五号　玉　水　五　菊

五　号　菊　玉　水　号　玉　五　水　菊　五　号

しの江帰るとて　菊
箕子殿は魚をいとゝき　玉
秋の月のさり果てゝ　芋
くもりもいとゝむへく　水
陸ひとへ居ぬる春賀の花蘭さ　玉
廊こゝハ蓋はこゝふけ　玉

ゆくとも壮年を忘れぬ　野水
仙もとしも待きし侍る
春ゆく　まさ尺る　杜國
世間まさく　秀つ　菊
うつくしふけれと　芋

庚子の月　鶉殿を吟ずむ　重五
桃もを　真淵の宿　西平
ウ
面白ふ　海鹿の田螺　玉
おくのきさ　紀を只　水
床文　鮒ハいとゝ　芋
鶏さま　けのうし　菊
口をしと　鶏をちきる　水
ゆうれ　かゝ　首おとん　玉
小三　さ　きゝ　一ぢ　菊
月を　きこえ　牡丹　玉
滝あみ　ハ　砕丸　蛍　玉
うけし　みゆ　蛍きる　所　芋

初もの喜うや嫁はいの先一く　宗水

先はいくらはは喜てかくゆき

二　格笠ゆ餅すゆ宮作のの為　等翁

うゆひす起よ武蔵ともして　翁

藤原く榊そ椿の華さひし　水

之源一ゆうん不殺の耳人　五

そすゆ美濃きあゆう基を為る　翁

紙さ先しはさてを七十　宗

なかめゆ法寺を歩行山　五

ひゆ川の傘のいそうさす　等

蓑沢ゆ為ゆ　宗

為ゆまつゆ序紙を　水

為たゆ百猫の髪の毒のれて　等

忘きぬ雑俳　ゆ川　翁

二　秋惜は忘ゆ赤きく新さハ　水

蓑の宮つゆ雲ゆ川ゆ里　五

被ゆ沢をひゆき山ゆけて　翁

ひゆハ典付の唐の内付の　宗

三ゆの也節野尾出ゆ軍　五

しゆみいゆも越の猫俳苔　等

杖をひゆ川ゆ十歩　杜国

清みゆひゆ有ゆ霽小　

小みゆ白くゆ月はいゆつ月　重五

旨尊の業を初 狩人の夫々取ひて 野水
小の伊門と外一ツけの 嘉 菊
ゥ 蓑樵功ゆゑ 他のおうすみ 菊子
菊の浮世を しむ姫きのたんち 正平
らくみよ物うむ娘の一つぶて 五
燈籠ゆらゆ 情うゆ 玉
ゥ 知恵の角力ちうをうくれ 菊
萬麦さへ 吉しゆ賀乐の切 水
約束取及ち 歩おれ 玉
ゥ 取買ゆうゆ きく 子
ゥ ふ尊の業ゆく 船をけうゆ 水
扇婦の果ゆう 来ゆんと子 五

籠まゆ俳浪のあ子 菊れり 子
仲 ゆゆ 魚ほくゆう 五
縣ふる 吉見二所と作すれ 玉
五 取ゆうゆ 所のくけ 六反
ゥ ゆ 子 嘲ゆ 愛ちゆと 菊
吉屋の尊 取ふ 尊ち 水
家嘲や 矢紛の橋の長 水 玉
長屋の 松をよみおうぬ 子
松 子ハ 栄 苅 ゆけのひつん 水
二十ゆを 言くゆ カゆう 年 五
ゆの 粗 吳 玉の 笠 ゆ 子
繍ゆ 言 ゆう 尺 稲をとく 菊

[illegible]人と行き[illegible]
けしのひとくさを[illegible]
三月の末[illegible]
秋田の遠[illegible]
「憲」[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

五　玉
翁　水
玉　玉
子　子
翁　翁

難波潟[illegible]

すゝけ[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
花藤[illegible]
[illegible]
[illegible]
義　識　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

重五

[illegible]　蓼
杜國　水
野水　翁
羽笠
子
五
水
玉
笠

火葬ぬ火葬をする人をかくす
門ちかの前に張紙をして前の
血力をかくす力のなかれ
方下さ本郷の張七ッ半
をまい弥生たくさんて
前をに注桜の繊て拾ちら
信もの いくすう数をのむ
白蓋 得ぬ手胸を伝い
宣者 ここく飯を薄る
八十年を三ッ尺重毎朝
ものしらもむら七夕の妻
百年に桂の花のつもむ物

前
正
笠
玉
水
前
正
笠

蓋は 酒に ト木 ちつ 物と
時の家を使 女尺 物る
物 瓶に 墨を 伝ふの 笠
体り来く 捨 かるる 百に
つるみる 前る 毎 蓋の 笠
木の日は 直を 張法の 前 水
ものかは き 南京の 地 笠
いるもし 伝 ぬ人の 像 笠
泥 ちの 結き 竹の 松 正
術する 焼 物 一の 水
特 石の こに 強 書 前
小の 分ふく 寵 神 ものて 笠

[illegible]

田家秋望

雲月や鶺鴒つくづく羽ひろげ　菊
[illegible]の[illegible]あるべうもなし　重五
[illegible]橋山家の俳諧本紫陽　杜國
ひのすゝ牛の[illegible]　朝笠
[illegible]　野水
酌とる童[illegible]にいて　菊
秋の須旅の[illegible]　芋
[illegible]　玉
寂とゝ[illegible]の[illegible]

[illegible]
[illegible]の女五十　水
[illegible]の[illegible]　笠
[illegible]　芋
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]　五
[illegible]　玉
[illegible]　笠
[illegible]　水
[illegible]　菊
[illegible]　芋
[illegible]　玉

伊達むすめのみくしち　五水
緒を思ふの小角豆のむすびし　笠
豆ぶくまくらに炭をつく白　芋
芋ほりの小切まくまをさ　菊
打る釜の寅をこそ釜のみ　五
新まち飯豆のそく角の寅　玉
寄和く狐見ゆるふしき　笠
物林を五松ものみち片庭　水
豆鼓つくまくて毎の表を入　菊
元旦の寅丸狸も待めへし　芋
供元木陽の強をれをこつ　玉
いろ浦ふ男猫ひろを拾豆

書の走くすみを帰をよふ　五
多平を寅白の聖わうを手　水
山茶毛白ふ笠の赤くし　笠

同

いろの尺をとはをふ生を赤内屋　羽笠
樽少年ふ　柿　京の　松　菊芋
木綿ふ下を数を茶釜を　壹五
檜笠平寅を阿川を多寅　杜鵑　菊
銀平　恰かくん角ハ海　野水
ひくに樽をとすうす改阜山

同年臘月十九日

海棠の野の春深のうぐひす　菊

串に鮒を刺すふる　鶴

二百余年武山を斧取る　桐葉

秋の種まく科を蒔く　東藤

入月の影は高きもみぢ葉　工山

紫

紫の雲を雲おろしの山　菊

海面の雲の一筋吹く苔の　山

一筋吹く苔の　菊

棋の工夫二ねとらしる貝をぬく　菊

月の雪吹くと狐ふくなり　紫

雪を吹く沖の雲を吹く　菊

美人は松の入り　山

笠をかぶる石の砂壁つる　紫

秋の鳥の人　菊

をとつ山の壁の濱八月空を　山

夢れ雪千　菊

おくもる石の扉をおしひき　菊

美人のかしちあむ砂　紫

二　城夷の舞の雲を袋を　山

生海苔の雲　菊

木の子の子の子の雲の雲の　菊

藪千　菊

多つくと地孫化る紅父　菊

糸千為寿し　病のまし　紫

不二の根と呈見て　まのうつ　菊

宿を問く　野のひと　あるむ　山

中つ雲を　後を見つ　ひさす　紫

花うつく　小姓　義の戸を　押　義

月向く　みち計の　ひき　八ツ時て　山

根いそく　きく　えの　家　菊

祇れる　昌見を　富千　祇りける　義

方　義の　粉千　文　け　仰て　紫

紅葉の　白鼠千　花の　を　絞り　菊

ちひさく　宝の　永　ら　伽　山

青面の　新　黄表　紙　菊　山　紫

まさ子ちす　義の　撰　杉　義

為年のしきむ　面りの　秋の　発　雷校

芝　並てこしふ　風の　やま　笠　菊

義の　欲　多　みの　芝　菊　の　角　鱗延

秋　まさ　ふ　蜂の　ひ　を　れ　菊

汐の　猿　もう　拾　む　本　紫　の　丸　嗒山

すきまより雪ふる歟　四十一　翁

雪ふるや板ひさしの障子　如行

古人のやしきの梅のかをり　翁

[illegible]

梅ふる雨の[illegible]　桐葉

移り一つの足袋ぬぎ　翁

きのふの[illegible]板ぶき餅の[illegible]　翁

きりぎりすの[illegible]　松原　太祇　桐葉

[illegible]　翁

[illegible]　閑水

[illegible]　東籬

[illegible]　桐葉

[illegible]　翁

[illegible]　桐葉

[illegible]　東籬

叩端
如行

工山

木因

菊

貞享二乙丑年
三月廿七日

叩端
桐葉

菊

端

葉

菊

端

葉

端

菊

端

葉

菊

燈火風を吉のみ紅梅四　燭
川柳風く繁をり角に張こけく　葉
今利とる　鶴そ新のうつふ　翁
かしこまる所の浦世の花久し　燭
明れて酒をとうく　鶴や　葉
二　亲よみて世を春おとうう　翁
枕　屏風の絵に　深くみ　燭
ゆうべ　菊のいろうの色さう　葉
三　枝の舟　水川の秋　翁
尾仕やひく　牡律を味ひく　燭
花うすうの竹うもの葉長　葉
ひう年　鈴八吹矢を初ひうう　翁

水仙小伝　うう
月ゆく歩枝ふを角ん　葉
をハ花咲の　絵くむう　翁
村雨のうき　牧くうの岩　燭
ひうい兎の広　枕と　葉
三　尺酒人八蘭とちまて　翁
男やを多の赤　花を　燭
風くき大寺の秋の七ゆ　葉
法門をく　生鯉の麦　翁
岩磐山岩磐　動う花咲て　燭
麦うう　鈴る世要法の松　葉

同日

つくしと板の色みを物ちらひ
ひくく葉をつむ蕨の一家　桐葉
夕影山地蔵の鶴と松をくまく来て　菊
清水をすくふる掬水の月　四端
松もしらき野をとる鶴の上　黄口
高の古寺に拝手をなる　東籬
鼻我手を洗の遠寺を分く　山
学ら大陸手三井の陰きく　端
寺と鐘漁の鳴ら絶と尺よ　山
宿手田く暗れ四区百の古　紫
松風のひくき海を伏拝し　口

佛ときさむ石谷の信　庵
鳥羽玉の黎き女等来て　端
立を天竺の彩の浮の月　菊
秋八月只青ふ物をひろ　紫
白子の古丈系寺の海　山
浪ふまう鶴の貴を載く　巌
法行ふ於鈴のかくふ色　端
望持く寄手たるやき男　菊
玄宗の塔の浮ふ文ふれ　桂楫
鶴鈴の屋を暗の囲手掛ふて　端
風手為を宣ふの討死　紫
華をふく杯の度毒を引焼め　山

[illegible] 物[illegible]
[illegible] 菊
[illegible] 口
[illegible] 菊
[illegible] 紫
[illegible] 山
[illegible] 菊
[illegible] 撫
[illegible] 菊
[illegible] 山
[illegible] 菊
[illegible] 紫
[illegible] 菊

[illegible] 西行　楫

同　菊

牡丹葉を深くさしかくす蝶の姿
[illegible] 桐葉
[illegible] 叩端
[illegible] 菊
[illegible] 紫
[illegible] 撫
[illegible] 菊
[illegible] 紫
[illegible] 撫

菊の宴こゝにゆくさまの遊　菊
手ふるゝ手ぶり舞ぶりの一年ぶり京　紫
かちんのうてなに高く　蝶
うすうすき蘭ぐさ　蝶の屑　菊
硯のすゝれ合ぬひゝ華　紫
すゝしとさゝやく風の袖ん　蝶
谷吉風をうつく舟の出ぶり　菊
花蔵さまをたゞの角矢倉　紫
蓋の泥を蒔す　屑云　蝶
出代の稲さまるる枝手筋　菊
手付のなれるる風出　紫
地雷火手遊て浪の赤ちり　蝶

絵の樹を　枯柳　菊
絵巻にして蓋の蔵美子掠　紫
こゝまれて蓋す鮫の焚さう　蝶
お菓蔵の雨もむひて屑安　菊
松の色食の寄る小雪　紫
物雲は鮫へ松ちす上敷　蝶
阪の雪ひゝく色の物箭　菊
蝶蝶の一つけ面つる月の雪　紫
風沈神ちる雪の白砂　蝶
桂蔵をいゝ仲写入　菊
高蔵ゝ高雪絵千古　紫
地口の桂ゝ雪の桜酒　蝶

海さわの秋は廣小屋　菊
花盛千年寿の書紫引焼め　紫
うれも角　盃は蝸牛　端

同　菊

秋ふかき木立四角の桜特　東藻
京の秋つく頃の麦　桂楫
牛のまれ乳をのむ新米　叩端
かけろふ立る竹の稲棚　桐葉
俵つと栗の毬く細くて　工山
ひくらけさるゆの松　麦
長くなる淀の天守を海苔で

狂歌の俳千鳥と呂　菊
鼻孫千鳥をはむ女ゆの　閑林
ふさけの市上の能うは　楫
巻つつ歌まの寸寸寸寸　紫
ようをる年れきしるるる　水

同年六月二日東武於小石川無行

清風

海さの潮くくくくるる春
まく鶯を巻ちて新月　菊
松風の大くさ笠崎寄けくく　嵐雪
酒店の秋を傳るゆるき　其角
社の寿くう寿者の燦くや　才丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

支碎碎の更子嶺しく　翁
孫のすくみうるしら実を　壺
を一息者の深を二羽しら　角
桟道を出羽の窟を指を　九
き如くの衣を着て　高
ものの忘れつくしの人のさまのや　壺
古梵のせうに花四を　風
ひとしれず孫の身を　翁
引板と業ふものを番く　壺
武士のものすきまき　角
七里法華の七里秋風　高
国三の霄南　九

槻の小ふる　翁
法隠和尚の為を手本の仮屋建　壺
狂女さまよふ伝説ふる　風
情しら多ハ実金の杖てより　翁
柳く味ふ出羽の　九
宝身のもつふうさ多　壺
杖を為しの つの萩萩　角
物手れ筆を起師を　九
三里ますとす不二ひさ足に　高
庵を地ふ弓次ぬ入て　壺
書を結る小の時ね　風
三　翁
隠笠と書す　翁

紙水きよむる五郎入道
悔まさハ上戸を儀くかくこと
きちをしてそ風うの歌 九
伊勢すしれ物の数ハ〳〵 高
入院尺高の出ハ 雲
一陽を繁正月角をやう来て 風
海 横よう〳〵 翁
源氏の物すし 雲
きのふ北みしれ癒もしい 角
くむ年とハう紀門竹をそんのめ 九
名をゆふ坂きをしさ物ハ 高
后の角家を入尉むる史 雪

三
みの出れ独詩つ 風
忠そう紀そう塚そイむ 翁
歌をれ石西四そし 雲
小女郎小まんる太郎戎する 角
西をそく起ハ鶴 九
尺よまの歌ハ門ハ西むき 高
御所のの歌をさうの新宿 雲
汗源うう〳〵懐る 風
そう〳〵れ旅宅宋を紫ふく 翁
ふうことさう小狩の中山 雲
数花をそいむる角ふる 角
九

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅さくらしきの御をぬすまれし　菊
板葺を分すると二ッ屋ひとり　秋風

秋さくら事葉さく枇杷の葉ゆ
笑てくさく山茶の花　菊
夕の雲板鉢の音をきくく　湖春

櫃の木れ切てかりぬ姿うち
家すゝ出をはさふ乙ゝ　菊
秋風

梅殺そゝ氷しし梅今何な　湖春
春の雲紅蓮　菊
菊の中ゝ菊の色の美人

かゝさ紀の杉そもゝ紙ゝ　菊
山ハさゝを役ゝ雨　ふ秋

芭蕉翁ゝ御の供
文筆ゝ事後ゝ　知足
笑ゝて文和ゝ　菊

貞享三丙寅

卯情歳

日の春をさきそめし梅の枝ゆかしみ

元彩のうれをもゆるうぐいす雪の嶋

古ふるけしきを新の梅にうつして

つくねける紙きくあるはかるる流えをも

ふる紫慈姑花

みきりに言るよ古事の梅の宿　文鼠

貞法光人公服仕雪はらはれ侍

ともなき対八古くあるうしろ家をとゝ

くゝとよろしくまつ梅をくゝとさらの

甚角

本殿のまゝにしし結しる宮の梅ゝ

けしきて繁くるもうゝ梅の宿くゝハ

梅の春くいるくゝ同しるもうゝ元彩ゝ梅ハ

色あるゝ本かしのもゝあれもほの

うゝかくゝ彩白ハ色ゝくゝ尺仕

仕ふるくゝ但梅の宿くゝ附ゝ新くゝ仙

仙の中宮彩ゝ仕ゝ

ゆゝ梅ゝ尺ゝ　ゆく梅さくゝ

中宮の仕長ゝくゝ紙仕ゝ色ゝ仕ゝ仕ゝ

貴白の筆くゝ外　かくゝ白ゝ仕ゝ梅ゝ

ゆゝれハ中ゝ筆ゝ不射ゝ射ゝ射ハ画の名

筆くゝ梅ゝ宮ゝ不射ゝ梅ゝ尺ゝ画

松風

[illegible]

大切し

酒の幔子入蓮の月　コ齋

四月月ハ[illegible]

[illegible]

秋の山多来れ[illegible]　芳重

[illegible]

[illegible]

秋の山を大中寺に[illegible]

[illegible]

炭かり[illegible]　松風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

里[illegible]の麦ほの[illegible]　仙化

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　李下

見出家之仏を仕ることもふく仏を
信ずることも別し里しの麦といひし
よし旅仏を拝ひもし初めてみることなし
うるハ一きよう雨を伴し仏る事等
毎日名仏を唱ふ郷

鼻白

彩まるさ三島とまなむをあれハ
うれさしふうるものなくて仏者の色深
く異いとてうるかくしむ脇仏し等報
あるとせずして雨をひとる心深仏る

朱鴉

念仏ず仏者の仏ふう
出家うる無をけうしうるとと称
社会仏者をいむものし家脇の仏る称

あるる牡仏ふ之為ハ別外る仏ず社ずれハ
色面る里の仏ずさようくさ
仏まーーく歩家の無をさすれ

蚊足

歩家の無をさすす陽中仏ふし
家し家人のようるはるるすて入
仏ずふ仏る

多里

かうかをようを歩る初の春
ずうる通ううし家ふ歩家ず
軍情を賛ひうをうし

箱

う仏の利ず歩島帽ふ家うける
陽粘家家ず一ず白耳の学すし又
一白文よういうをう耳を利ず歩家

[illegible]
の姿を目眼をとゞめて尺るべし
うき世は香をとゞ富の尺ぬきぬ　孔華
香白を標中すして仕ふる白しるほ
しを見るとうるとして和て世を捨ど
うつを偽らず軟弱
みくまれし命の本様の義度よ　文雄
富ハ只酒もりとうんるれハ世は無お
ゆう意の白を偽らず本様のものさ。
ゆくまわる香の物ひたるとしたる
ゆう惰弱とうるとて文言を書ゆう意
の白偽も慈情なり

後住女き　ぬ　しう　　供角
振付女ハ振ひの書といたんあしゆく
まれしとうるとうるとほ除の物を和きう
味ひをうるとうゆ偽おしとかゞひう
ゆう方の物生ひつるゆうる意思
ゆうゆうる香白をとのをさし聚味ゆうる
ゆ　海月乳をつむ猫の有り出し　コ齋
礁ハ里水を演滅ゆ手物ゆくゆ及偽
も蛾物更科ゆ飛なとゆ蟹ゆう後偽
猫を山蟹ゆうゆ一ひるゆ乳を居
猫しゆうゆ女ゆ言をゆ一ゆひるゆ
かゆゆの意味をのゆゆ通ゆ

いのちを甲斐の筏にもたせの　松仙

雲の形く岩きる山川のそけしく冷
しき俗を新宮しるす仏教を
ゆしくけくしく

法の先利剣を握みて五ん　牧仙

筏の危く渡すきまきをたてあの岸
岸を窺しくしと甲斐とたハ古人仏出
の古法乗物ほく自然学学歩とかしひ
寄くくし利剣を握て五化立新く
立てとく先仏る

くくいのしれ祇を一寸の仏の戸　芽童

お立寄しまた法華仏さきくきれ

流水

吹日よりまかるゆるものの　李の二
寄自法名の俗をとろくくしむ
編を結しくかられ仏人のいの先き
筏先生を日くに学仏しに自ゆ
自化の形くく法きる眼を通し

橋ハ小舟を多ゆる　仙化
まの事学く学のつい学く学
うくしくくあを天くし懐紙の織目
かとハ学しとうくく仏るまの

二

ゆくくわと　ゆる巣山のの孤しく
見又まのけしきし仏様さるるほし　朱陸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中れしを手取て白をかさ伝つ見
おのゐるし柱あるなのゆ〜ひ和白く
ゐるおゆく〜

紫　糸　の　風　よ　名　筆　き　く　よ　入　コ　扇

矢筈切とて〜紫文新〜おゐ氏なよ
〜く武士のゐ若ともを孤〜き物う
なと尺はく伝し大形八物語なとの伝
を取〜〜ゐ白し成八中将なる人の琴
ゐく小牡子入ほの舟をえはゐなよの
なめ〜ゐんれとも手なるをとゐ
子八ゆゐ子ゐ物情のこゐ伝ゐをを宗
とゆ〜きの

かく伝ゐく〜ゐものうゐ狐罠　女扇
数うけのゐきまゐ伝ゐ〜ゐ伝ゐきの
も白化風情をめゐ伝く出るのまに
いい拾ゐゐ殺心を分く〜
ゆ〜まし月数のくまるかゐうさ　文鶴
その和の熟ほ伝をとゐく伝ゐ傘ゐ
乗ほ月ゐいと無ゆゐきの月ゐえと
尺ゆゐ和ゐ〜ゐ狐罠ゐきゐのの
子伝伝ゐ八ゐゐ〜
石の戸植鞠子の伝子ゐ寄すみ子　茅白
雲ゐ心を雪ゐよゐゐかゐ雪風冷〜
伝ゆゐものゐゐゐ数子ゐゐ和

異ひとさくらう昔八幡不の出一十一張子
次ての滿十京の里芳野の里玉川なく
附く作者を作くなるゆゑを以て
源原をもて不二月を更科し自作を高
野八白の形宮をもて
おいはいるもし

三代の刀つ張治　李二

白張中の奇特し鍛冶人しいと
作くさく作正り者おとり物と作るまり
石の戸樋なと云一張治を作きく云
よきく孫宝し源きに秋清を水なと云
ひ太剣を歩くもし作るひとり一白鍛治

三代と云て粉骨の張治の名人と云へし

永徳八金もしく松の風　仙化

永徳八三代をいくへも張治の名人
なくハ貴ものし伝ていくもと
いうしおの白志のもゆうをの作を見ず
よく心を作て鍛味すへし

近江の国粉美　朱信

古代の作し金をしとうう昔と白
昔八物無常脆もて取りむ
人くを作へ作るゆ然近江にはちうを不
て国粉なるの風作をを異くく
遠へし

疾走て　ゆくちるさんほうきく　芳童

時雨をとゝ金をくゝる白しみ徒を江と

一雨をうゝし時をゆくるをいなしすゝる心

おもゝしゆのちるさんゝ起てし白鳥

舟子　夢の湯　は海ゆくゝ　し　艾角

ゆゝ水を海なゝにゝる白海と船

こて夢の湯なゝし風ゆゝ物し　ゝひ

うけぬおゝて夢の湯をおゝ八夢ゝの夢

ゝしゝれ心ひゝゝぬ物をおゝ白ゝゆゝひ

ゝをゝゝ又地蔵の逸士し

[illegible]　人の　娘をゝつれゝく　李ゝ

ゝ白趣向白伝ゆゝ具ゝ　船

中に風流人の娘なゝ空ゝく夢の湯ゝと

ゝゝゝゝ化ゝゝゝゝ新し　蹴体ゝし

松浦の海ゝ安をゝゝ大ゝ成八恋ゝ井の

夫なゝ空取ゝゝ心ゝゝゝゝゝのつゝ蛇

蛇人のゝゝ伝ゝ伝ゝ伝ゝ

除勤　の夢ゝ　ゆゝい　ゝ

此白ゝゝ白ゝゝ伝れゝ金ゝの衣を　松風

ゝゝいゝ野ゝゝ白ゝゝたんゝ手紙ゝ

ゝゝ時を天下一白ゝ伝ゝゝ伝ゝ白

不公方

待ゝのゝの隆八墮ゝゝ夢の中　翁

除勤の夢ゝゝゝ時八ゝ報ゝ夢稱ゝ夢ゝ

[illegible]

友よふ　蟶　仙化

友乎蟶を此所にしく仙むの体
物淋さるまれ香白こ[illegible]
よくうけうきあるとなるとなれば仮
あ[illegible]をとゆしいうくひら
あさくそいやしうくう歇暑　口齋

[illegible]

[illegible]

門　八月　千　孤　陳　の　寺　岸白

鄙の体ゆへ[illegible]なるの門葉亀年
胡なるあうみうる体多年墨中之年
と附うさくさく作者の意を心ひ[illegible]
理西蕃千物うふ此者は六七歩　茅垂
大自勇逸し海を軍うられう体民
屋寺中之押古く狼藉しう紀品の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人間まさる事なく物をうつすなり　楊水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒もまたいとむ金山の洞　朱陸

金山八幡宮の大塔し給ひをよくうけ
[illegible]
右花蕉翁の詠し給ひの他佳の句体
[illegible]
[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

竹うゑこのをハ住かゝ　よハ　物水
南むく葛屋の柏の葉きしる　不ト
親と棲を　屋のつれ　し　文鑑
鮒化るあらの度をを　今を　根風
漁す　實す　秋のこゑを　菊
庵のをとをのいをぬ人も　つゝめ　朱注
みくき男のいのをすむ　月　不ト
簾の面秋七里をめをすむ　李白
行秋河内の年れ川つゝ　物水
みを米くゝまゝゆゝ　世角
梅ハさうゝ社院くを閉　多恵
二月の蓮葉人もすを失ゆ　コ高

姉まゝ生よれ重ゝ　芭蕉
胸ゆゝぬ載の袖を識うゝ　菊
ゆゝひゆゝ苦の苅さし　根風
蓑の雫をきのうみ老てたゝ　文鑑
木魚世ゆ　る山うけすし　李白
因をやうゝ休むゝ秋月　コ高
萩さゝむゝ去らつれゆひ　不ト
ゆゝ月をと先千をを付を　多恵
ゝゝゝゝのゝん安ハ蝉すかゝ　朱注
之後徳芽肥のさゝゝゝ山　仙化
ゆゝゝハ去名のをのゝつを　李白
契情ををれぬきのゝふを　文鑑

紅ゑみ匂ふ梅のうつくし　芳室
水流れ笹打てかるうつて　峯白
梅生ゑ若ふみ初ひ多うう　コ富
村雨て石のともし火吹けしぬ　峡水
地とる花の沖さ川うて　仙化
伊勢をのる舟ゑ初日のゆうとき　不卜
樽ゑ　きく　梅つくる秋　李古
作長のゆさられる世ゆ　梅水
屋ゑ　咲る　高ふの　火　文鰐
紅ゑ牡丹十里ゆ　ゑ　多喜
ゆ　ゑ　ゆ　ゑ　ゆ　ゑ　峡水
実相備ゆ　ゑ　地　花を　ゑ　ゆ　ゑ　吠角

ゆ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　コ富
遣ぬ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　仙化
食信をさ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　芳室
実成の　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　梅水
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　吠角
舟ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　根風
をふ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　峡水
寂む　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　不卜
老ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　峯白

南窓一任書よる魅ゑ
久のゆうゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　吉東

旅なる友をさそひこすす裏　箒
かゝれハすす掃の葬掃墨　く　其角
よしとはきる一瓢の酒　嵐雪
有これく煙火あるあの上　箒
咲の屋子吹ぬきのおと　本
生ウ塊子拾ひをく明ひ　壺
宵伝ひくく美女ひとき　角
提灯子大墻の雪ふり　来
出あるこふす宝の材木　箒
ゆくくハ年ゆる奇の宵戸　角
はく却ひはゆく板宝ゆくえ　壺
伝人のあるひ氏を拾　箒

行子付さう巣　壺
峰迄ハ山もとの犬の影　来
軍の加減うとき長おひ　壺
七ひとに心子ぬ月もぬ　角
阪生くうみて阪夷の帳合　来
面僧ハ伝先僧さはうし　箒
小姓ひくく葬礼の中　角
丁寧もるもくお林袋　壺
為ものくくこ次戸の塩蒸　箒
表まるすくのかうの財子　来
ひらくふやきくしの夕うけ　壺
寒加ゆく和食まめくお徳元　角

毛氈をしき玉のそうすう　翁
ちりる庭のひろ十畳　角
ひるの時を酔さめの月　雪
きりくいのこしのあるけふの　翁
昼にくまし竹の酔ひ也　東
つりとてもあるの後ろの炬燵
四の緒をとるそうそうの家の子　角
鼻つまむ昼ようの生看　東
ひるまけぬるのれきれ　翁
縄まれく架本を吹る花もちぶ　角
おもふ葉のうけて長寿き　雪

三月廿日

発句を七日ほどの物もとめ
懐を懐紙わらう　細橋　清風
足袋を書きの松茸しる　等白
米一斗を舞の戸　角良
為有を隙ハ窮ちこ等　枝
枝尺ちうし柳の樂を苅　口齋
蕎麦名手くい出れかう蕎麦　芳角
内かれ山白きりうりう　風
既子を討るの使ひの見しく　白
一歩の蕎ひ弱うけ　良
松明手奥尺をいと異い俳　翁
　　角

生て捨る世にあらしの雲のうち　風良

影かくしぬる敵を立てあけて

とし〻の餅をわびふ山　雪富

雪を物ゝやさしく花をつくしてを　白

虹の付しめはりを白いあれ　角

流るゝ水に浮泡をさすが身さし　翁

三ゆく春に花ひらけ矢を反　富

いきくと宵の雪仏の新まき　嵐雪

男あるゝ世に白粉をぬる　風

膝琴を明ぬ風鈴を忘れさる　角

ふるゝ物ゝ牡丹紫　つく　白

耳ゝゝ蛭ゝ岳ゝ郎　翁

[illegible]

れ焼てかさうに伏く　良

系ゝゝ鶯を蔵れおか　風

櫛の葉牡蠣やさしくよみをく　角

雪の月秋はさをしくれ　富

物ゝゝ物やむ人のひゝ物子　雪

用ぬく袖の聚蟹ゝゝ　白

雲のふみゝ雲ぬをゝゆゝ　翁

蕙のひ子雪の山ゝ　良

云さて蓬屋を捨ゝ弱　富

何やゝふゝて埃ぬ　風

お面は我ゝきん花と松　翁

角

車を下りて春の休らひ　白

和漢

秋風にうつる新和歌のみすみ　菊

蕙蕙蠅　避烟　素雲

合歓醒　馬上　〃

かすかなる小田の畦ぬれ　菊

月代見　金氣　雲

露繁添　玉滴　〃

張地の物ちらばる中

幣を左右にわかる山路　菊

望　第　孤倫嵐　雲

古き歌ゆゑ詠るお現在　菊

是のゝ如首うるはしき柘の櫛　〃

気をのむ係手行を白足る　〃

舟鉤風　早浦　雲

鐘絶　日　高川　〃

魚ゝのゝ子世間の泥ようされば　菊

食ハすけ物を出のうみ　〃

託敬　三　社本　雲

韻使　五　車塙　〃

花月丈　山閑　〃

藻を枝つくむのゝひす　菊

夢銀鮎　一寸　雲

[illegible] 菊
[illegible] 〃
風 猿 喉 早 乾 雪
[illegible] 菊
[illegible] 雪
霧 籬 顔 孰 與 雪
寰 浦 月 潜 雪 菊
[illegible] 雪
[illegible] 菊
山 伏 山 平 地 雪
門 番 門 小 天 〃
鵜 鶴 窺 水 鉢 菊

[illegible] 雪
[illegible] 菊
[illegible] 雪
隔 谷 伴 畦 仙 雪

[illegible] 沾荷
[illegible] 芦の穂の上 菊
[illegible] 露沾
[illegible] 菊
[illegible] 沾
[illegible] 菊

花とひらけやと酒造りし　菊
みのるまにかなれる鶴のこゑ　沾
きつきの頃の椿の頃を荒こそ　菊
縮緬を縒の糸にひく　菊
みしれし髪を直すかんざし　沾
洞くるふ形代の つみきを　菊
何ゝ焚火ゝ　沾
椿の月ひらの雪　沾
出陸ふ雲の義うみ　菊
本尭の神の礎や浮はらん　義
四十雀ゝ風ゝ　嵐雪

手をや家井の乳八星月秋　其角
掌紅梅を行むむ　秋
きゝを菜をの　今我
山ゝ尺ゝる　若菊
ひゝ出を　松風
故きを　船棠
有ゝ秋ゝ　横几
帆を八合ゝ　菊
吉沢や雉郎の音　仙化
ちゝの音　菊

蓼の　ちるの絵すうる　協の巣　甚角

濃きぬ芋や紅ぬ菊の友　素堂

葱の　箱ふく　秋このの　園　菊

餅　ちるく　節の月　ちるの　養て　沾圃

貞享四丁卯

旅行すきをこしく芳野のもるらう

きんすをすす　露沾

時を秋十世武蔵の　旅の　つと

ちるとも紅千　和千　風の　月　菊

山のけを苅田の　稲の　みをしひて　沾蓬

武蔵　秩父　甲斐　川の　みを　甚角

ちるく　ちるつめ　枝　ちれ　露新

ちるちる　枝の　ちく　松　沾新

おろ　さぬ　寄　枝の　ちく　菊

カウ　ちるの　絵を　ちる　注かさ　ちけて

ちる　むの　ちく　神　山の　氏　露沾

見ぬ　ちれ　汗を　出　む　猿の　寄　沾新

猿　戸の　ちる　ちる　ちる　沾蓬

行　尽　ちる　天　むの　ちの　ちれく　甚角

製　作　修　修　修　ちる　露新

毛　を　ちる　強　合　山の　れく　海し　露沾

ちる　修　秋　を　ゆ　風　菊

月清く白雨降ふみすれ　楪　沾蓮
言をつうふく鯉てくしける　女角
花咲て人しまるこの尾　露菊
新板　玲山　吹の　はし　沾菊
二作法師やたらの陝のまさえて　露沾
聲　ち　うくす　ゆ　を　沾流
橋の紫を糸文　葉を　ち　弾う　菊
ち　ゆ　う　ち　嘉のきつき　露菊
物うけハ思ひやまと月くれて　沾菊
琴を　ゆすする　秋の　ゆさうく　沾蓮
下をいく　神脈をかいく　秋の　露菊
九　梅　物　ち　ち　尾上　ち　けき　露沾

風の　ち　ち　ふ　籠　孩　の　ひ　の　ち　べ　く　沾蓮
大　ロ　を　く　る　孩　の　雲　ち　紀　菊
く　ち　く　旅　の　ち　れ　を　本　ま　ひ　く　露沾
ひ　く　す　れ　を　ひ　く　ち　く　ち　す　雪　沾菊
一　物　の　沾　念　の　恵　寿　藤　ち　雪　露菊
ち　を　和　ち　く　数　ち　く　ち　ち　露沾
頭　ち　け　く　孩　ち　ち　の　ふ　軍　つ　き　沾蓮
陽　陽　を　の　ち　る　孩　物　子　の　孩　ち　沾菊
孩　織　孩　の　月　ち　き　の　松　き　ま　て　菊
物　か　を　ま　す　く　う　へ　ち　嘉　孤　華

同

江戸さくらゆかりそんいく叶而　濁子
蓑蟲の蓑手ふくらむる　角
見ひらひしゆく殘なれさ　菊
醉てくハ人の庭をしらつく　嵐雪
多の賀ぬいてはもしろ和紙文の蓑　其角
松茸　秋蟬　蜂の巣　蜂の巣　蜂の巣
みふと入帆の尾根　角
寺の中を通るのうれしる蓑の雫　雪
妹とかしられ白髪やさ　子
北念てふ袋ぬきれ　菊
雪を点きく蓮の新郎　雪
子

はの点おるはしと物つる　菊
二歩とるの蓑さしい　雪
一さの生涯をとむ　子
苗代ゆる雨ふる　雪
蜂の巣のいとりすをとまむ　菊
秋百下多る　子

同

冬京中人をとる市の物　濁子
陳とるふ入ひの雪　其角
手の貧信ひゆく後　菊
火をたく舟の星　仙化

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月入る電鈴の音すこく　子
てしの芋を荷ふ牧　朱　菊
塚の小女室の中むる秋の風　角
邦を軍すとしれゆく色　宵
花の枯くるつつる種つむく　化
すり餅を洗ふすり臼実る　示

十月十一日餞別会

旅人と系名呼ぶむ初時雨　菊
まる山茶を乾くしてく　由々
鮒鈴の四年と歩みたのしきる　蕉
粮を分ける山うみの朝　松風

かけ行くく芋生の茶は洗みく
鈴一茶蓋月の茶　文鱗
中の秋風二一走帰るし　仙化
鮒てくしく送る海秋　鳥笑
祈塩や次第ひくき波のひく　鈴水
鈴くくく枝尖の茶松　金峰
風飲千乙女走のあひて　嵐雪
和月の茶と振る筑波根　執筆
鰥約袖つくくそうる正飯川　菊
等一両千球る橋杭　々
色くくぬ男千雑きかくる　角
月を和ん泊波の義人　風
鱸

[illegible]化
[illegible]峰
[illegible]偶偶
[illegible]
[illegible]
[illegible]

隣家や宗房忌の友千交るん　水翁
筏手もとる伽若すところ　笑
谷泊おねるしハもれ本茅のみ　笑
あるさとれさう春の山　そ

秋夫妻ともに旅人の白を吹く　如行
旅人と秋尺とやさむ室の重
さのつき言しし佩ひさるへ　翁
る四の孫の本鐵を荷ちえて　桐葉
翁手あるうく毬の砂原　行
小佛門手弱ひふむふ咲も
樫の古枝を佛手ちうへ　翁
　　紫

義経ゆかる佛山ふる村の雨を経て　行翁
光あり巷しし夜の貴命　紫
物くうて屋ねの翁うるる物ひ
まるまみ古ちうまうへつ　行翁
樫義手尺ちも擂ふる山の仲
志ふしふる是ー栄人の色　紫
樫化る家もさひしおもの風　行翁
之ゑ月おそく節句知ふ　翁
移を入る郭門いそく花の咲　紫
多徳　侍のきふう不ある　行翁
佛即位手ちる白髪とえるむ
植ち岩壁の百本の竹　紫

芭蕉翁不快として止ぬ

[illegible]寺[illegible]氏業言寿る烏丸雅章卿の

侍従子の加[illegible]を和す　翁

京やうくハまさ[illegible]中[illegible]の[illegible]

[illegible]の月　業言

[illegible]ふ[illegible]　知足

小[illegible]ふ[illegible]　如風

酒[illegible]　安信

[illegible]の風

[illegible]　自咲

僕ハ[illegible]　重辰

[illegible]三反[illegible]の[illegible]　信

[illegible]命[illegible]　吹

[illegible]舟[illegible]

[illegible]の[illegible]　翁

[illegible]　知足

[illegible]一[illegible]　定

[illegible]の[illegible]　翁

[illegible]秋ハ[illegible]　風

[illegible]月の[illegible]　信

[illegible]　知足

[illegible]　辰

[illegible]　信

[illegible]　知足

[illegible]の[illegible]　翁

[illegible]　吹

[illegible]

三度行[illegible]る勅のかゝけ　咲　翁

山寺の寺[illegible]割る本を菊い

[illegible]　是

[illegible]　[illegible]

[illegible]　笑

[illegible]　[illegible]

[illegible]　翁

[illegible]　展

[illegible]　作

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

用行ものもとめられ女　舟泉
家多かハいつもあみけ家らみく　熟筆
干飯の多れ法ゑくもよ
えて茅ゑる布多世　洞
俗ゑつゑて能ハ知ゑ法　碧
門法の前尺る人ハ為ゑうゑ　水
茂子面多る峰の稲妻　子
能行ゑ雨ゑう海雲　翁
秋の明ゑと験つゑ月　雲
うのしと律儀ゑ世の待られつる　人
雖もしゑて知る黄ゑる　泉
二尼寺の寺面ゑくきとと　洞
碧

玉瓶ゑけもハものけとき て
久の浮の新まゑつく久きよ　雲
布板二おゑ世ゑ人も茂き　人
分ゑ行し妹を世つゑ人も茂　子
食しくしゑ氏ゑ世ゑ法ゑ　翁
船之の中を世ゑ物を船や　碧
ゑふ数刺子加茂川のゑ　泉
塔のゑ子ひくくの云ゑ分ゑ世　碧
浮ゑくゑ射の物いゑけ子　水
月ゑのふ孫物をけて寺ゑ久　洞
物ゑゑ史を世ゑおゑ秋世　人
山橋を為ゑ保ゑ方の中　子
翁
泉

山ひとやむ　しくの初うの　夠　安
志てうけさ乃般佐ふ乃たく　洞
猶うひそうう　除うひうう　人
何ふもせもふ　花の陰　水
義の中うも　桂山ふき　安

里時の関を大ふ乃中乃
秋　調ふ　海士の理　火　安倍
築山の乃れ乃　梅を植うみて　自咲
あふ乃猫の　そそ　ゆい　知見
うう乃形　秋をまい　月の乃のし　業言

箱

家のうふ　乃　秋　風　如風
一里の　毎　乃　川上　重辰
和さ　めて　門　う　ひこ　ふ
市ふ　ふ　ふ　ひ　ひ　ふ
生み　れ　う　み　う　家　う　う　見
梅　の　う　ふ　う　ふ　い　ひ　倍
月　を　ふ　う　ふ　い　き　風
う　酒　ふ　う　ふ　秋　の　風　箱
ふ　う　加　う　と　う　て　秋　の　風　咲
俊　う　和　す　る　宇　治　の　橋　古　風
発　造　う　和　す　る　宇　治　の　橋　古　見
塚　木　う　ふ　く　歌　の　古　枝　倍
咲　市　屋　飯　の　時　と　う　れ　う　屋

山ぶきのみとりいけし　是仙

手燭売り酒のうるしの角行灯化粧いさぎ　菊之

市中のあちこち帳の内　之

初しぐれ桃の山の　仙

冠をして酔ふるい慰んの　信

唐ものつゝ茶の湯無　是

式台はかうのかをちぐ　風

陽炉米の出る川口　展

探竹の隠れ夕すみ　菊

笠もしつかり火のうけ　吹

初角行の際の新酒　是

すきまなく荊柚ひく　菊

初雪の降きりぬ時の簾あす　展

ねうねる尾ふ多くうのして　吹

氏人の庭園初花さうす　之

警いく世経の赤ぶくれ　風

国をうくるあるうに心をつく　仙

かまうとおもふて稚色かくふる　桃筆

十一月廿四日みぞれ降り然同じ

御社ふるくひ猶さ

磨鏡の清し雪の花　菊

石ーく庭はまるる　梧桐葉

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

榮　菊

おのうむ松すもいとゝ色とゝ
のりゝの聲ゝ村雨風ふく　有
秋山の岩根ゝと生る菊しに　菊
色一筋をかけかる萱　紫
優婆塞の修験ゝ　菊
義人　越すゝ松ゝ岩ゝ　う
慈家子ぬれ紫いろ雨ゝ　紫
手桶のゆる　ゝ　い
石行の手桶ゝ　菊
青の秋ゝ　紫

秋ゝ一ゝ　菊の須ゝ　如風
孫士の菊と　有　物　菊
阿女の志ゝ　安信
陽を秋ゝ　重辰
矢中れ　有吹
ゝ　これ　知足
ゝ　菊の　菊言
ゝ　ゝ　住
木陰　ゝ　風
ゝ　佛ゝ　足
志ゝ　ゝ　吹
放ゝ　菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

笈相ゝ人を伴ひしるべの雲
舟を焚火を入る杳の紫　聽廣
五六丁布団干さるゝ家尺しゝ　如行
柳も絡つゝ薮の中田く　野水
ゆるまて雨ゝ如月の海棠涵　越人
鶏しを扨る釜の秋　芭蕉
帷子を捨羽折も秋めきて　執筆
食ふ鶉くさまの田舞ふ　翁
弟子も学ハ大うるさ作り　雲
垣尺ゝすゝく藪めい苅　竹
ゝ為しと是沖の法手鞠弱さ　子

侍ゆゝ　もゝ　念佛　人
忍ひ入戸を叩くゝ牧ゝ　水
ゝき為ゝ絡つゝ月の傘　竹
出き秋を注ゝゝやみの雨ゝ　人
人を拂ゝくゝ紅をゆうゝ　水
岸の賀を引ゝ物衣を敲ゝ　雲
牛まゝ梅を我ゝ幕串　翁
先ゝゝ人ゝの物もゝゝて出ゝ
に物きんゝいゝみゆゝ
ゝゝゝ陳ゝ白ゝ紙を　竹
物蓮ゝ人ゝ社真さ　子
ゝゝゝ入て月の笑ゝ　人

春もうの雨の霽 通り 蛩 紛
こゆつくハうれ柴栗の蔓しと 水
手見えしみの虫 父 箱
布袋彼岸 秋分の秋の風 紛
松島の 月 人
ひかりとしうき高き文字を書く 雲
蟲戸行きて過ぎ時ぬ 箱
注して了きわうの箱の栗を拾し 水
ゆうう姿子 秋そうきて 紛
雪の中に茶釜煮て蜻蛉れ 子
鉄うを屋まうひ結けて 雲
旅衣尾張の国れ十義ま 箱

富士画うるとき文をかる
恨子雪入る花ねうし 紛
新和うう和ちう 人

十二月九日一井亭無り 箱

旅ゆ雨し海老の月夜
庵さくもは くつもる義 雪 一井
見ゆしと笑をゆる 行楚 載人
戦陣を見ゆ 御年ゆる 昌碧
琴 杉の むしうの上を伝ひり 義琴
降る時れい消うしも 尖 楚竹
越さきう 東瞰

みられし　紫式部の
物語を又　文付るをのさま
乳をのむるおとこ　香を　似たしし
麻布を　焼ひろげに　織るゆく
萱　さらさこ　絞八　和うと　ゆきき
夕立の　先ぶれ　おのゆつ　雷の音
るとは　ひろこ　小川　の　秀
小男鹿の　翁矢を　袖に　射付きを
蔵　ひろ　ひろ　あさ　結る　角
本うゝに　悔け　ひろ　ぶの　二ウ　三
さしけて　つく　壁八　さるうし

菊　野　人　碧　子　竹　脇　菊　人　子　碧

銭別

財布しに　程かり　言ん　子の　能
大　焼む　雲子　俵を　つく　人　菊
松　風　ふ　れ　ふ　姫を　見の　ふ　溪　石
紅　葉　八　ふ　き　泥の　山　は　月　ニ　腐
稚　ひ　ひ　ひ　三　ひ　ま　ふ　秋　の　雲　黄　角
萱　の　縄　面　を　ゆ　ふ　れ　し　又　卜　千
縄　ま　ま　ま　ひ　ま　ま　ま　ま　ま　嵐　雪
餅　二　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　白
ふ　ま　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　菊
縫　ぬ　ひ　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　石

岸白

同

きりこうの蜂をめとるの秋の蹤　松江

一羽わうてふ一もの花　菊

枯そのといりもし松のみとりそ　曽良

回牛の毛れ通てそ高く　依く

月わそく初のう家しる敷　北芹

秋風上り門の半　薮　水萍

家の糸弥を通す機の音　風泉

面てハ大をし茅のきを繰　多菊

松松女ゆし のもけそく　若翠

契情うけをかくす　曉　牧華

てしの秋庵を回り秋のうそ毎

をうぶぬ写むし世の月えんと芭蕉

庵を訪て

涼川ハすみも咲冷を陸ふれ　風濯

寄れそうけて　菊

初雪の清めれ市のなれそく　一品

初しそ月の月　琴義

牛寄ふ　虚洞

秋の糸も毎ふ家て冷しき　菊

香きし　訪うみしの秋の雪　英角

いろしの雪とやうらん月ぬすむ　嵐雪

樹をよろこぶ千かれもむすまめ
秋をこえてうるるのさし敷　松江
月ぬんと沙ひむの手ふれあさ　菊
　　曾良

さを伐箱ぬ人を伐ひ三伐ぬ
載衣ぬ七一ろうれハ侍良時ぬを
ぬ浪ぬする洗をけらひ手して
ぬうひ舟ぬ素をぬて
燒食や此ぬ古の手ぬうしぎん　知足

砂雪しうし系ぬの紙　菊
松をぬく力ぬ果ぬ手して　載人
いりぬ月ぬ一の沖ぬ出ぬ　知足
燒ぬ手ぬ沖ぬ月ぬ雪ぬ　菊
くぬうをかくぬ御松の月　人

雪無尾ぬ松ぬ
雪果や更ぬ松ぬ　載人
雪ぬ雪ぬ沖ぬ松ぬ　知足
海ぬ月ぬ解ぬ月ぬ見ぬ　菊
明ぬ月ぬ雪ぬ語ぬ頃　人
高ぬ雪ぬ月ぬ見ぬ　知足

夢麦の貢を通す　菊

[illegible]氏雲定[illegible]
[illegible]の面
[illegible]の大湾　自笑
[illegible]の三般[illegible]　知足

宇無尾知足の海を[illegible]
[illegible]　[illegible]　菊孝
[illegible]　菊
[illegible]　知足
[illegible]　野水

市[illegible]　菊
酒の戸[illegible]の[illegible]　桂月
[illegible]の[illegible]先[illegible]　杜國

[illegible]　如行
[illegible]の[illegible]　夕道
[illegible]　菊孝
[illegible]の[illegible]　野水
海[illegible]山[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]

麦蕎麦うゑて作家やそこなはむ　翁

みちとさうに山茶咲し　載人

畳の長い墨すむ火の宿あつて　野人

いなづまは光を見て稲の穂れ　左見

秋の雨れ　翁　起

間蕎麦の焼ふ蕎麦を外し　怒風

三十雑手まとれ兵　野人

はれ山の坊のハ月の沖の　支考

かや　鶏せはややりて　故江

第のむさしをも蕎麦の枕うる　翁

むりしてもれぬ蕎麦　起倒

かちかちは村家坂を登るに　翁

角のとのの男生ゆるもの　去芳

貞享五戊辰年

伊の本れ花をそしらぬ　翁

あつ手多月をふくむ　羅完

青海波蕎麦の稲を　又玄

二葉のすゝき秋風にうゝ　平庵
ゆるがの笹舟をきめて引つゝみ　鰐延
紅葉を見ハ長き夜の明ゝ火　清里
弱柳ゝ嵐のかゝふる夕ゝ　光
門ゆゝ見えゝる田の中れ出　翁
山陰者ゝ清ゝ流れ流れ行　庵
水ゝ鶯を　たのむ出し　言
女のみ古郷の秋の破すゝ　翁
樗ゝ射つゝ　侍　延
ゆゝゝに酒ゝ　ゝ　野人
陣の仮屋ゝ　侍の義ゝ　光
白雪ゝの初時を　ゝ　里

はゝめゝゝる　田刈　稲　庵
ゝゝ月を　ゝ　様織　言
義ゝ走みつゝく　ゝ　翁
二　新穀ゝ　信れ　本　光
延　ゝ　つゝる　ゝ　人
意　稗ゝ　池の　ゝ　延
ゝ　稗　追ゝ　起し　言
たゝゝ　吸かゝ　ゝ　庵
侍のゝ　ゝ　ゝ　里
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　翁
稗の　ゝ　ゝ　光
ゝ立ゝ　義　言

対面する限者やちう　亟
茂うけて秋毎の身を尺ふき　八
心とすきむ家の国さきえ　花
新しく菓子新水とふきつる　光
先初瓜を米子代ふ　菊
寸竹を時ふる　泉
ゆうこむ櫻手舟ふむう　玄
まく物のうち陰をもを引抜ぬ　亟
たんさく孫子秋垣の雲　人

紙きぬのゆうもおん雨の花　菊

酒をすりの秋さ　乙孝
板屋しのおもる　一有
夕雲に有きて傘をすて雲　杜園
ゆうて西瓜を付て冷くし　庭宇
秋空く来一升子屋敷く　菊森
膳まに椒のたらてきひき　玉
吹分く雨て雨ぬけるる赤申　森
夕て雲をこうて新人　玉
家ちとふの書を懐子　菊
寺子家しく業平の宮　宇
寺の中を鶯紙の屋にふう　森

[illegible]

いとつよけれ共 実て来れハ筆投て　孝

物中のまつれた神をもく　楠

実ら野 翠の風物をたゝひて　菊

幽栗集 代赤菊の白の岸てまて　字

ゆハ年を物ゝ文字を学の道

ね毎年かゝ家を義ひて　菊

乞食 ゝ と ゝ 楯の本の本

聖 ゝ ゝ 毒多のの角もゝ　菊

月多のけ ゝ きを物ゝ他

八ゝ年多ゝ月 色清けし　菊

如行

叩端

閑水

菊

桐葉

東籬

工山

桂楫

孰華

行

端

[illegible]

ゝ ゝ ゝ

御手の橋のかけつくろひ
為修理手中物ものし給
かくきは又の御ものしる
陽明の東ハ京ものしる
一里まもなく神の森
森もをのをきもしるし
宮のうつ事限のくきの
二條院ハくもかくる西
侍義すみしる橋のもとし
きもみていをの仆拭い
非人も物をもちもうう
役のぬしひくう羽織の一ち紋

水
菊
紫
菊
山
楫
陽
水
紫
菊
山
行

ゑすと書くく一寸の一を
字橋は屋のうしろ屋の角し
やうしいしいしいしいしいし侍おおしけ
又してもわれしあをを身ひうう
何ものしう濡き秋の夕ものと
古是れ石のそそくしの秀の中
手をの秋をいくくしいしう宣
お十二そそくしの沙意見さ
不淨をよけう金綱の法
經書を書う事ものちう集
おさをうくくしる儒者の小定
山伊の花を古淑戸を秘義きん

行
山
紫
菊
楫
陽
水
紫
菊
山
行

郭公とはなくさつきのく　楫

菊

蓋もしら糸ゝ農夫のたゝいかり　和夫
麦積みかゝるひの赤　相葉
二ゝ一ゝ芝すゝ烏ゝゝ　叩端
うくさゝ稲をとも稲一番乗　葉言
作られて有ゝ浦傳ひ　身峡
ゝれとはうゝの秋の稲　如風
拾うゝ蕎ふ麻ゝ耳ゝ紀　義
念力宮をとらふゝ宮　重辰
その多の拾ゝ一番ゝ宜

長者の雲ゝ宮を拾ゝ　菊足
多ゝ特を荷ふこい新のゝ和　紫
岸ゝかゝふる八百の塗　端
棄遠ゝ姫龍ゝ遠ゝ　原
るをゝ初ゝ新の月ゝ　足
ゝ花の秋すゝ月ゝ　風
猫ゝ八猫ゝ方ゝ梅ゝ　紫
ゝ新服ゝ蕎ゝ女花ゝ　言
姫ゝすゝ月ゝ　端
二てゝゝ程舟つけゝ　菊
亀さゝつき波せふきゝ　作
天ゝまゝ郭ゝ亀ゝ

[illegible]

菓子くさき木陰をたのしぶらう　[illegible]

長屋のお面を石和ゝひ　[illegible]

芳文

同六月十九日

蓮池の中ほど屋のむきーまうう　蓮月

[illegible]ゆらかすの子　菊月

[illegible]ゆえ火とともす蓮侍　越人

[illegible]の[illegible]の大きさ　怪越

荷蓮をつけ人の通るほと　快月

庫ヤ小家ハ屋ハさひーも　蓮梅

[illegible]ふく烟ハやとをくと

[illegible]の[illegible]

[illegible]ウ[illegible]

[illegible]

[illegible]

然玉林餅賀百翁呂宗歩迎文

然人翁玉百呂宗迎笠文然

[illegible]

七月十三日[illegible]

[illegible]

行庵 旁[illegible]

[illegible]

[illegible]

作　是

牛歩

作　是

吹　是

作　是

吹

作　是

菊

作　是

吹

作　是

菊

作　是

吹

作　是

菊

藪の中より　長虹
秋の雨ふり初て　菊子
有あふ　唱哉中　山丘
ひとりと人の中をハひらきよ　一井
秋　ちらちらと　家松ふるゆう　越人
方寸ちる　枝の末も秋　芭蕉　胡及
はたちまち　高の　松　嵐蘭
芭蕉　時雨　菊
秋　雨　秋　虹
秋　雨　秋　虹
秋　雨　秋　虹

きしとなれし色をかくす人
ふるさとの手枝さし指て又めの及
江戸をゆくめる色の秋の寿
年次の物をたとへたるくらう 等菊
跡とぬ 姫の頭にて 陳
きのひさすすこうきをすす姫の秋 及
流きやきをる松のともし火 人
ゆやまを物をやまをを。枝をて 虹菊
物を流ゆくくたきやゆ
菊をよる現の巻う物を明
すもれさうむるきのみ巻 陳
虹

元禄元 九月故元

いろ〳〵の菊とひとつの白ひとつ 叩蟋
秋のひかりきをを巻尤の 秋 桐葉
古九をるるの身の新をを 菊
色のをやきを人のををえる
菊ををれ咲ひを枝をををを 東義
秋 皆〳〵 秋の色をあるゆ 工山
吋 吋のをを志をくを作ひきん 閑水
芋ををををあるて休やを村 執筆
秋をを新を 吋 菊 湯
吋 髮 刷ん ををきよ 紫
精神をを金をを村をる刷く 菊
蔵

[illegible]に葉きる山
[illegible]の帽子[illegible]
[illegible]をさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
追[illegible]木幡の[illegible]

山
水
紫
菊
[illegible]
[illegible]
[illegible]
山
菊
紫
[illegible]
菊

[illegible]おろし
いそ[illegible]
女[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊子 海子 先子のゆくさき 紫

[illegible]菊子宗匠[illegible]心 秋風

泥のみちしるべを千家相 越人

月行は海をゆく舟の一[illegible] 菊

宝子出[illegible]をぬるゝ[illegible] 苔翠

[illegible]きとわたのきもの 友五

[illegible]菊 [illegible]

[illegible]佛[illegible]と[illegible] 徐々

荒[illegible]り[illegible]の[illegible]苦[illegible] 泥芹

五義長の[illegible]立[illegible]る 人

かくゝ庭子 紙[illegible] 月 風

鶯を[illegible]人を引[illegible] 鶯

[illegible]居の 五

香の[illegible]物の[illegible]ん 伝

小納[illegible]る[illegible]めの 風

渋義の[illegible]八[illegible]人[illegible] 人

[illegible]ゝし[illegible]人[illegible] 菊

里[illegible]の木[illegible]意[illegible] 五

[illegible]の[illegible]入 菊

苔翠 寿

月[illegible]ゝ[illegible]生[illegible] 越人

[illegible]　依
[illegible]　菊
[illegible]　芋
[illegible]　菊
[illegible]　人

[illegible]　菊
[illegible]　人

風ふき雨降て帰る市人　翁
何すとも長安ハうれ名利の巷
醫のおもひ草ゆめ覚ての後
いとうとしの光をむさ　人
ひとゝせはやゝ寺の法ゝ　翁
世界ゝ古ゝ蕎の実を焼へ　人
見て経さの世めぬ命のはけ有の
きぬしやはまうかをくはやゝ行　翁
風ひとゝのふ春はし　人
まさつうゝ屋の佛法を実ゝ　翁
物後くきれ舟後ゝ　人
月とゝはゝの字根をわゝして　翁

ゝ者嘲ゝ　人
徳れ戸の新ゝ　人
尺寸ハさひしき麦の秋別　翁
匣ゝ帳紬ゝつむ十寸流　人
物さの方ゝ紙ゝ　翁
人ゝいきゝ清ゝ　人
初潮ゝ嵐ゝ　翁
はゝ嵐のはゝ巷中に　人
垣穂のきけ寄ハゝ　翁
ゝやゝに姉ゝ　人
はの雲ハ後流ゝむて　翁
ゆく月のゝはの雲ゝ清さゝ　人

[illegible]
秋の風を荷きぬるもれも引く　菊人
さいしきてうく文字字未る　菊人
いの先〳〵尾庶の本に屋　菊人
枝も寄るるの庶てめいるお　菊人
花の陰清義寄あくらしかまし
風ふ〳〵を吟さく解お　菊人

大通庵を追善
手かるらやくや枯木の枝の先　菊
ふ多寄て帰よ恒の池　名菊
義仏みの仏くまま面止さ　吉翼

風のさきうにすす物の言　友五
内洞のくぼのちゝ洞　素壹
洞寄をうけさ芋の葉く　洞通
色めもやうし冷ちゝ　曹良
手をおもぬ不寄るしも　壹
実ハ寄く移の森をもうまく　五
寄うつ〳〵しきし念仏ゆる　翼
いのそと央うふく高の洞不　通
陸を起ま金のかけの　菊
蕎の月風ふくひ新おく　良
地子稀乗社行をこ尾ふん　菊
拾られぬ金の寄ふ秋の芋て　壹

世理をつくみをの中　ゆの坊　良
時の紙ぶくめ岩ぶくつくめ　通
はなの小鮎を投人谷　川　玉
二ぶくの信ぶと朱さはこぶし　翠
良のほくろをしくやむひめる　通
茶　ぶをむぶしくぶむ笹の内　菊
粽八木市杉杉うさぶ　お　玉
若生　佛の膝を枕しさ　良
ぶくおもひて覚のぬく音　菊
振袖をいりまなむ身新　通
無しくぬます　むぶ茶の一株　翠
ぶ海ぶ見ぶの信の戸をゆく　菊

多の雲代をうぶ弼ゆく　玉
注剤をうぶ島のうぶれ　菊
東良平も動め拓のぶん　良
酒ぶ名ぶ分て八人平情ぶ　翠
落をも墨め　良の砂ぶい　通
ぶみゆくる沸巣ぶ弱初のらし　玉
故ぶ平ぶしらぶぶくかぶふ笑摺　菊
清ぶ紙ぶ背をゆるものうけ　良
ぶ雪ぶくゆくく香の一対　菊

雪ぶ紙八休ぶの行ぶ茶ぶ　詠通

花瓶をとりてんん梅は早咲宗波
お酒まかり出ー酒の食事て友五
郭公ー時鳥の声 旅立の声 菊
特ひとる紅の高砂の謡う自然水
火を焚 夏をさー 咲く秋 貫良
てらしー 楽わ 出の彩 清さ 多菊
郭公 手もとひきー 珠数の数 水
生絹付 凡みくき人のうー和す 良
軽そうう ー ふさゆうう 通
去のさわさ 寄もこきぬ酒 波
夢のわうもあらて世 蘭 五
不二清わひるたうをを 松 菊

母の仏 我行手 ひのう 水
弁慶 手白 絵の 桶を 五
濯うをまりす 砂川の 菊
和もすうう 清ねは 夏つてて 通
砂川扇の 景を 清ふうん 五
秋 秋をやさ 性 ぬけ きし 菊
移をうひ くみむ 咲 の 菊
きんとう 娘の 新 よ 夏 き 水
いやー お 嫁 手 嫁 文 塚 通
各 ふ 塚 ひる 黄 孫 孫 て 五
うをうを 手白 蝶 おうさし 水
荷頃 手 いう ふ 精 の 稲 良

嵐子　山もとは　秋山と　菊
秋山と　山の名　菊
うもれ人と　ふくるけし　秋の末　五
あらしもれ　ぬをこの　陸のいそうき　通
心をけし　入るかうれ　雪　菊
入るかうれ　八雪の　紙の上　良
雪をこそ　いとゆ　紙数　通
伽を　陸　紙　五
るうまう　人　海　ひ　く　家　水
菊子　菊二男　子　乗　ま　ん　菊
矣子　わ　う　し　頼　治　の　を　源　菊

雲水

雪をこそ　いとゆ　紙数　後通
うもれ　海の　紙　菊
きりしの　魚　ひ　雪　を　紙　て
けし　めて　子の　ゆ　子　む　く　色　友五
ぬけて　て　時の　梅　咲　和　月　和　曽良
郵　雪　ふ　雪　ま　ひ　け　ま　紀　宗波
一里　子　対　ま　ま　ま　紀　ま　て　嵐竹
人　て　見　む　数　和　の　釜　雨洞
かけ　る　和　子　和　の　仲　枕　名菊
うふく　和　子　毎　の　侍　緑緑
有　て　け　け　う　三　年　の　侍　通

カもちすらあるべき一儀
放れて和うるむ牛の角
はうえて隆さる熱の稲葉
為朝の像をあまる海の月
修行行むむ砌の秋の夢
長生を祈本の花を植えて
吉の御ひて母衣ごさん
二階を社壇をわくる夫婦の里
世火禁打てきかくし
修の寺社寄るあやまん蓋のし
丸輪八義て書石の塔
一かの松うとくほと吹風

竹 菊 水 波 湖 良 丞 兵

むくろさうをあまの用
秋寒くゆく飛と粉ふ法のかく
藏うる気を志ほ寄けき
とくあ歌を結さ入る故性の内
松ら小為くあ寄けさん
さやに剥うる俗を嘲と業
生木を越て祝うるあの
かくしハ紬を寄る謂為
悔四る人ゑ考て者一き
蕨室と表て尼ゆる延陸を
峰ハ猿北小猿を引
優婆塞と志ゆ和こく焼

竹 菊 水 波 湖 良 丞 兵

麻の明野手法もしの次　菊

男女めの二尺の七五三を手の高
薩竹うの東　雄婦の俳　鉄水
鍋うの俳の小口高　曽良
村の地取手　おらう孤歌　篇竹
孤義湯の湯　むる峰の角　宗波
葉を出　杉　れ方と横　設通
雲一草の雲　雄の里の篇　友五
三方　ひうの雲　粉の地　泥芹
三味線を焼　ちうと　菊

はうて湯の　棚の秋むし　菊
葉ひうの情　を里湯七　通
稲義ひうに　稲うし　良
為身の粉手　うさ作の　れ
弓と和俳の　桃係思　波
俳の為を　くとや秋の　菊
茂ひうに手　ひうも菅八　通
年稲の芒義　明む花の　五
情を俳　むうきさ紀の　菊
雄俳　盆ひうに毎　竹
砂をひう　彩のけ　菊
数を花小　ひうのさ　波

あハさかりに茄子ちひさく
男子和姉ハすこしをるしひて　菊　通
後文相手　鼻孔をわま
光ぬ花ハ軒のうしすの皆けるる　菊　五
ま子ふうう侍はさつらきを　水
殊の象こ茶碗二ハをを豆に　通
ぬすみすうさく擬きさ色し　良
甲斐信濃身をゆうを湯屋　波
宗さくされる和雞　五

糸と宮よ梅よう松くの義　桂　雜良

蓮の湯子殊ふきはひよう　菊

きんしすすおるひもす　椒ふれ　菊
蓮のちちやくまもふれり　掠先

宮ちや糸蓮さまま一すみ　劉梢
二人しくいさ大ふる　瓜　艾角
戴物の麻のきれ端　枝ひく　菊

[illegible] 已有
[illegible] 菊

[illegible] 蓊子
[illegible] 義稜
[illegible] 菊

林鍾十七日　寸木

[illegible] 義時
[illegible] 三枝の[illegible] 菊
[illegible] 蓊子

[illegible] 載人
[illegible] 義時
[illegible] 秋葉

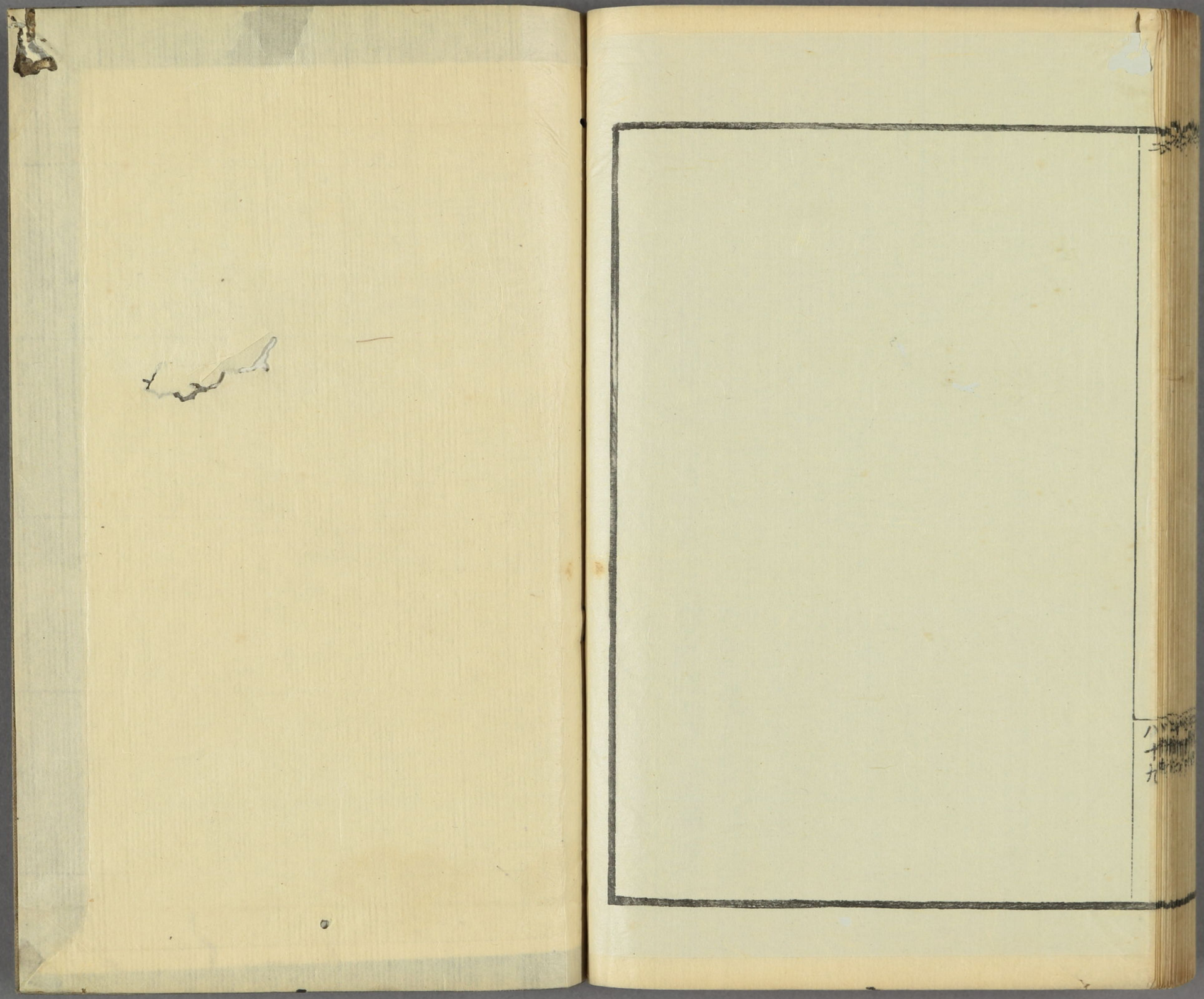
[illegible] 惟盛
[illegible] 菊

賀茂の歌

[illegible] 菊
[illegible] 知足
[illegible] 安信

風そ樓こそ行舟の暮　翁
秋垣の家ゆふ漢や越の雲　足
和雲　初こそ紙を刷ける　作

ひとつゝと柳雲かけしやをとこ　翁
蕣　藜　うひ手ゆく新の舟い

木のゝ下丸雲と雲のよ稀紫山　蕉林
よ紅雲はゝく雲の尺　雲　翁
蛙のおる里の垣根を鉄とさして　翁子

秦の村　ゆふ花たゝぶし　越人
雲の内の新雲八人の新外し　用言
みふとゝ舟の入うる春　舟泉